概 況

2021年の歌舞伎界

小玉祥子

二○二○年に感染拡大した新型コロナウイルスの猛威は収まることなく二○二一年にも持ち越された。各劇場は舞台から近い最前列を空席にしたり、部ごとに出演者を入れ替えたり、劇場玄関に来場者用の消毒液を置くなど、それぞれに対応を行った。

一月は歌舞伎座、国立劇場、新橋演舞場、大 阪松竹座の四座で歌舞伎公演が行われた。

歌舞伎座は三部制の「壽 初春大歌舞伎」。一 部の最初は舞踊「壽浅草柱建」。コロナ禍で中止 された浅草公会堂の「新春浅草歌舞伎」の中心で あった松也、歌昇、隼人、米吉、巳之助、新悟、種 之助らが「曽我物語」の人物に扮した。続いて松 羽目物の舞踊劇「悪太郎」。猿之助の悪太郎。二 部は四世坂田藤十郎をしのぶ「夕霧名残の正 月」。鴈治郎の伊左衛門、扇雀の夕霧。続いて 「忠臣蔵七段目 祇園一力茶屋」。 吉右衛門の由 良之助、雀右衛門のおかる、梅玉の平右衛門。 吉右衛門が十七日から二十四日まで休演し、そ の間は梅玉が由良之助を、又五郎が平右衛門を 勤めた。三部の最初は「車引」。白鸚の松王丸、 幸四郎の梅王丸、染五郎の桜丸で高麗屋三代が 顔をそろえた。続いて「らくだ」。芝翫の半次、 愛之助の久六。

国立劇場は「四天王御江戸鏑」。 頼光と四天王 物で、二〇一一年に復活上演された作品の再 演。 菊五郎、 時蔵、 松緑、 菊之助らの出演。

新橋演舞場は海老蔵と若手花形主体の「初春海老蔵歌舞伎」。序幕が右團次、壱太郎、児太郎による「春調娘七種」。中幕が「毛抜」。海老蔵の粂寺弾正。最後が舞踊でぼたんの「藤娘」、海老蔵の弁慶、堀越勸玄の牛若丸による「橋弁慶」。

大阪松竹座は「坂東玉三郎初春特別舞踊公 演」。「口上」「賤の小田巻」「傾城雪吉原」。

二月は歌舞伎座と博多座で公演が行われた。 歌舞伎座は「二月大歌舞伎」で三部制。一部の 序幕が「十種香」。魁春の八重垣姫、門之助の簑 作実は勝頼、孝太郎の濡衣、錦之助の謙信。続 いて新作歌舞伎の「泥棒と若殿」。 松緑の伝九 郎、已之助の松平成信。十世三津五郎が演じた成信を已之助が引き継いだ。二部の序幕が「於染久松色読販 土手のお六 鬼門の喜兵衛」。仁左衛門の喜兵衛、玉三郎のお六。「お染の七役」から「莨屋」と「油屋」の上演による名コンビの舞台。続いて「神田祭」。仁左衛門の鳶頭、玉三郎の芸者。三部は十七世勘三郎の「三十三回忌追善狂言」。最初が「袖萩祭文」。七之助の袖萩、勘九郎の貞任、歌六の傔仗、東蔵の浜夕。十七世勘三郎が得意とした袖萩、貞任の二役を孫の勘九郎と七之助がそれぞれに受け継いで成果をあげた。続いて「連獅子」。勘九郎の狂言師右近後に親獅子の精、勘太郎の狂言師左近後に仔獅子の精。前シテは端正で、後シテには勢いがある好舞台。

博多座は「二月花形歌舞伎」で昼夜の二部制。 昼の序幕は「正札附根元草摺」で歌昇の五郎、米 吉の舞鶴。続いて「松浦の太鼓」。幸四郎の松浦 鎮信、猿弥の大高源吾、橘三郎の宝井其角、壱太 郎のお縫。夜の序幕は「御浜御殿綱豊卿」。幸四 郎の綱豊、歌昇の助右衛門、壱太郎の江島、米吉 のお喜世。続いて「元禄花見踊」。

三月は歌舞伎座、国立劇場、南座で公演が行われた。

歌舞伎座は「三月大歌舞伎」で三部制。一部の最初が「猿若江戸の初櫓」。勘九郎の猿若、七之助の出雲の阿国。続いて「戻駕」。松緑の浪花の次郎作実は石川五右衛門、愛之助の吾妻の与四郎実は真柴久吉、莟玉の禿たより。二部は最初が「熊谷陣屋」。仁左衛門の熊谷、孝太郎の相模、門之助の藤の方、歌六の弥陀六、錦之助の義経。仁左衛門が武将としての大きさを示しつつ、わが子を手に掛けた悲しみを見せた。続いて「雪暮夜入谷畦道 直侍」。菊五郎の片岡直次郎、時蔵の三千歳、東蔵の丈賀、團蔵の丑松。菊五郎が隙のない動きと巧みな台詞で追われる身でありながら三千歳に会いに行く直次郎の心情を活写。三部は最初が「楼門五三桐」。吉右衛門の五右衛門が圧倒的な大きさで幸四郎の久吉は

端正。吉右衛門が二十八日の終演後に入院、千秋楽の二十九日は幸四郎が五右衛門、鴈治郎が久吉を勤めた。吉右衛門の最後の舞台になった。続いて玉三郎が主になる舞踊で、日替わりで二つのプログラムに分かれた。Aが「隅田川」で玉三郎の斑女の前、鴈治郎の舟長。Bは上が「雪」、下が「鐘ケ岬」。二十六、二十七日はコロナ禍により二部の公演が中止となった。

国立劇場は「時今也桔梗旗揚」。吉右衛門監修で「饗応」「馬盥」「愛宕山連歌」の三幕仕立て。菊之助の光秀、彦三郎の春永、梅枝の皐月。菊之助が春永に屈辱を与えられての心情の変化を細やかに見せた。

南座は壱太郎、米吉、橋之助、尾上右近らによる「三月花形歌舞伎」。昼夜同一演目の二部制で配役が変る。「吉野山」「川連法眼館」。Aプロが壱太郎の静御前、尾上右近の佐藤忠信実は源九郎狐、橋之助と米吉の日替わりでの義経。Bプロが米吉の静御前、橋之助の佐藤忠信実は源九郎狐、尾上右近と壱太郎の日替わりでの義経。

四月は歌舞伎座、御園座で公演が行われた。 歌舞伎座は「四月大歌舞伎」で三部制。一部の 序幕が猿之助の童子実は稲荷明神、中車の三條 小鍛冶宗近による「小鍛冶」。続いて「勧進帳」。 白鸚が弁慶、幸四郎が富樫のA日程、幸四郎が 弁慶、松也が富樫のB日程に分かれた。雀右衛 門の義経と四天王は両日程共通。白鸚の弁慶は 抑制された動きの中に義経への思いを込め、幸 四郎は「滝流し」をつけた勢いのある弁慶。富樫 は幸四郎がせりふに優れ、松也は声量をいかし て爽やか。雀右衛門は気品を出した。二部は最 初が「絵本太功記 尼ケ崎閑居」。芝翫の光秀は 反逆の将らしいすごみと、母と子を亡くす悲し みを表現。菊之助の十次郎が美しく哀れ。魁春 の操、東蔵の皐月、梅枝の初菊と周囲もそろっ た。次が「団子売」で、梅玉の杵造、孝太郎のお 臼。三部は「桜姫東文章」の上の巻で、「発端」か ら「三囲」まで。仁左衛門の清玄・権助、玉三郎 の桜姫・白菊丸の名コンビの三十六年ぶりの復 活が話題となった。仁左衛門は清玄で桜姫への 執着からくる哀れさを、権助ではしたたかさと 色気を出した。玉三郎は桜姫で大胆さと一途さ を感じさせた。コロナウイルス感染拡大の緊急 事態宣言により、二十五日から千秋楽の二十八 日まで公演が中止された。また十七日から二十 四日までは第三部の開演時間が午後六時から午 後五時四十五分に繰り上げられた。

御園座は「市川海老蔵特別公演」。「舞妓の花宴」と「弁天娘女男白浪」。

五月は歌舞伎座、シアターコクーン、明治座 で公演が行われた。緊急事態宣言の延長で歌舞 伎座とシアターコクーンは十二日初日。

歌舞伎座は「五月大歌舞伎」で三部制。一部は 序幕が「三人吉三 大川端」。尾上右近のお嬢、 隼人のお坊、巳之助の和尚。続いて「土蜘」。 松 緑の僧智籌実は土蜘の精。前シテで不気味さ を、後シテですごみを出した。猿之助の頼光。 二部は「仮名手本忠臣蔵」から、最初が「道行旅 路の花聟」で錦之助の勘平、梅枝のおかる。続 いて「勘平腹切」。菊五郎の勘平。菊五郎が切腹 に至る変化を細やかに見せ、すべてが掛け違っ た勘平の哀れさを描き出した。時蔵のおかるは 勘平への一途な思いを感じさせた。三部は最初 が「八陣守護城 湖水御座船」。補綴も担当した 吉右衛門の休演により、歌六が正清を勤めた。 雀右衛門の雛衣。続いて「鏡獅子」。菊之助の小 姓弥生、獅子の精。前シテが初々しく、後シテ は勇壮。胡蝶は亀三郎と丑之助。

シアターコクーンはコクーン歌舞伎「夏祭浪花鑑」。 勘九郎の団七九郎兵衛、松也の一寸徳兵衛とお辰、七之助のお梶、片岡亀蔵の三婦、笹野高史の義平次。 串田和美演出。 勘九郎は動きもせりふも切れが良く、純粋であるがゆえに過ちを犯す青年像を描き出した。

明治座は「海老蔵歌舞伎」。「実盛物語」と新作 歌舞伎舞踊「KABUKU」。

六月は歌舞伎座、国立劇場、博多座、南座で 公演。

歌舞伎座は「六月大歌舞伎」で三部制。一部の最初が「御摂勧進帳 安宅の関」。芝翫の弁慶、雀右衛門の義経。芝翫がおおらかさと古風さを発揮。続いて「夕顔棚」。菊五郎の婆と左團次の爺が睦まじさと柔らかみを出した。二部が「桜姫東文章 下の巻」。四月の「上の巻」に続いての仁左衛門の清玄・権助、玉三郎の桜姫の顔合わせ。仁左衛門が清玄で哀れさと滑稽さ、権助では欲にまみれた姿を見せた。玉三郎は公家風と下世話さが交錯するちぐはぐさを面白く見せつつ、りんとした線を感じさせた。三部の最初が「京人形」。白鸚の左甚五郎、染五郎の京人形

の精、高麗蔵のおとく。続いて新作歌舞伎の「日蓮」。 横内謙介構成・脚本、演出。猿之助演出。 猿之助の蓮長後に日蓮。 比叡山の修行僧蓮長が 日蓮と名を改め、法華経を広めるために下山す るまでを描く。

国立劇場は「歌舞伎鑑賞教室」で「人情噺文七元結」。尾上菊五郎監修。松緑の長兵衛、扇雀のお兼、魁春の角海老女房、坂東亀蔵の文七。

博多座は「六月博多座大歌舞伎」。昼夜二部制。昼の最初は「松廼羽衣」で時蔵の天女、萬太郎の伯竜。続いて「与話情浮名横櫛」。菊之助の与三郎、梅枝のお富、梅玉の和泉屋多左衛門。夜の最初は「傾城反魂香」。梅玉の又平、梅枝のおとく。続いて「身替座禅」。菊之助の右京、時蔵の玉の井、彦三郎の太郎冠者。

南座は「海老蔵歌舞伎」。「実盛物語」と「KAB UKU」。

七月は歌舞伎座、国立劇場、大阪松竹座、南 座で公演が行われた。

歌舞伎座は「七月大歌舞伎」で三部制。一部は 序幕が「あんまと泥棒」。中車のあんま秀の市、 松緑の泥棒権太郎の二人芝居。中車が屈折して 金に執着する人物像を、松緑は悪人になれない 人の好さを表現。続いて「蜘蛛の絲宿直噺」。猿 之助が六変化を見せた。梅玉の頼光。二部の最 初は「身替座禅」。白鸚の右京、芝翫の玉の井は 共に初役。白鸚は品位を崩さずに愛きょうを見 せ、芝翫は夫の右京への過剰な愛をユーモラス に演じた。続いて「御存鈴ケ森」。菊之助の権 八、錦之助の長兵衛。菊之助が匂うような若衆 ぶりで錦之助は貫禄を示した。三部は「雷神不 動北山櫻」。海老蔵が五役を勤めた。「毛抜」の 弾正に強さと稚気があり、「鳴神」の鳴神上人は 線の太さを出した。児太郎の絶間姫が色気と一 本筋の通った強さを感じさせた。

国立劇場は「歌舞伎鑑賞教室」で「義経千本桜 河連法眼館」。又五郎の佐藤忠信と源九郎狐、 高麗蔵の静御前、歌昇の義経。

大阪松竹座は「七月大歌舞伎」。昼夜の二部制。昼は「伊勢音頭恋寝刃 油屋、奥庭」。幸四郎の貢、壱太郎のお紺、隼人の喜助、鴈治郎のお鹿、扇雀の万野、虎之介のお岸。続いて「お祭り」。仁左衛門の鳶頭、孝太郎と千之助の芸者。夜の最初は「引窓」。仁左衛門の南与兵衛、幸四郎の濡髪、孝太郎のお早、吉弥のお幸。続いて

「新口村」。鴈治郎の忠兵衛と孫右衛門、扇雀の梅川。

南座は「坂東玉三郎 特別舞踊公演」。「口上」「雪」「鐘ケ岬」。

八月は歌舞伎座、南座で公演が行われた。

歌舞伎座は若手中心の「八月花形歌舞伎」で 三部制。一部が「加賀見山再岩藤 岩藤怪異篇」 岩藤の霊を中心にしての上演で猿之助演出。猿 之助の岩藤の霊、多賀大領など六役、巳之助の 鳥居又助。三日の初日から十八日までは、コロ ナウイルス感染で猿之助が休演して巳之助が六 役を、又助を鷹之資が代わった。二部の最初が 「真景累ケ淵 豊志賀の死」。七之助の豊志賀、 鶴松の新吉、児太郎のお久、扇雀の勘蔵、勘九郎 のさん蝶。七之助が豊志賀を台詞に緩急をつ け、不気味さと滑稽さを交えて演じた。鶴松が 抜擢に応えた。続いて舞踊劇「仇ゆめ」。勘九郎 の狸、七之助の深雪太夫、扇雀の揚屋の亭主。 勘九郎が狸の一途さを表現。三部は最初が「義 賢最期」。幸四郎の義賢、高麗蔵の葵御前、梅枝 の小万、隼人の多田行綱、米吉の待宵姫。続い て「鞘当」。歌昇の不破、隼人の名古屋、新悟の 茶屋女房。最後が「三社祭」。染五郎の悪玉、團 子の善玉。

南座は「坂東玉三郎特別舞踊公演」。最初が「鶴亀」。玉三郎の女帝。続いて「日本振袖始」。 玉三郎の岩長姫実は八岐大蛇、河合雪之丞の稲田姫で、A日程は橋之助の素戔鳴尊、福之助、歌之助の大蛇の分身、B日程は福之助の素戔鳴尊、橋之助、歌之助の大蛇の分身。

九月は歌舞伎座、南座、春秋座で公演が行われた。

歌舞伎座は「九月大歌舞伎」で三部制。初日の二日から六日まで、コロナウイルス感染者が関係者に出たため、二部の公演が中止に。一部は「六世中村歌右衛門二十年祭、七世中村芝翫十年祭」。最初が「お江戸みやげ」。芝翫のお辻、勘九郎のおゆう、七之助の阪東栄紫。芝翫が父である七世が得意とした役で勘九郎と呼吸のあったところを見せた。次が「須磨の写絵 行平名残の巻」。梅玉の在原行平、魁春の松風、児太郎の村雨。歌右衛門が復活した舞踊をゆかりある三人が勤めた。二部の最初は「盛綱陣屋」。幸四郎の盛綱、歌六の微妙、雀右衛門の篝火、又五郎の時政、錦之助の和田兵衛、米吉の早瀬。

丑之助の小四郎、亀三郎の小三郎。幸四郎が盛綱の胆力と変化を見せた。続いて「女伊達」。時蔵の女伊達木崎のお光。三部は「東海道四谷怪談」。仁左衛門の伊右衛門、玉三郎のお岩、松緑の直助権兵衛、松之助の宅悦。「伊右衛門浪宅」から「隠亡堀」まで。仁左衛門が薄情さと悪党らしい色気をにじませ、玉三郎が変化を鮮やかに見せた。

南座は「九月南座超歌舞伎」。「都染戯場彩」「御伽草子戀姿絵」。獅童、初音ミク。

春秋座は「市川猿之助 春秋座特別舞踊公演」。「春秋三番叟」と「連獅子」。

十月は歌舞伎座、国立劇場、大阪松竹座、御 園座で公演が行われた。

歌舞伎座は「十月大歌舞伎」で三部制。一部の 最初は「天竺徳兵衛新噺 小平次外伝」。石川耕 土補綴・演出、市川猿翁演出。鶴屋南北作「彩 入御伽草」がベースの怪異譚。猿之助の小平次 と女房おとわの二役、巳之助の多九郎、米吉の おまき、松也の尾形十郎。猿之助が小平次で不 気味さを、おとわでは婀娜っぽさと非情さを魅 力的に見せた。続いて「俄獅子」。松也の鳶頭、 新悟、笑也の芸者。二部の最初が「時平の七 笑」。今井豊茂補綴。白鸚の藤原時平、歌六の 菅原道真。続いて「太刀盗人」。松緑のすっぱの 九郎兵衛、鷹之資の万兵衛、彦三郎の目代。三 部の最初が「松竹梅湯島掛額 吉祥院お土砂、 四ツ木戸火の見櫓」。菊五郎の紅屋長兵衛、尾 上右近のお七。テンポが良く、右近のお七の人 形ぶりが鮮やか。続いて「喜撰」。芝翫の喜撰、 孝太郎のお梶。芝翫が愛嬌たっぷりに変化をつ けて踊りぬいた。

国立劇場は「伊勢音頭恋寝刃」。「相の山」から「古市油屋」まで。梅玉の貢、又五郎の喜助と藤 浪左膳の二役、時蔵の万野、扇雀の万次郎、梅枝のお紺、莟玉のお岸。梅玉が「油屋」で、怒りを募らせていくようすに変化を付けた。時蔵がしたたかさと嫌味さを出し、又五郎が喜助で誠実さを感じさせた。

大阪松竹座は「GOEMON」。愛之助の五右衛門、今井翼の神父カルデロンと霧隠才蔵、壱太郎の出雲の阿国、鴈治郎の豊臣秀吉、吉弥の石田局と名古屋山三。

御園座は「坂東玉三郎特別公演」。「壇浦兜軍記」。玉三郎の阿古屋。

十一月は歌舞伎座、国立劇場、赤坂ACTシアターで公演が行われた。

歌舞伎座は「吉例顔見世大歌舞伎」で三部制。 一部の最初が新作歌舞伎「神の鳥」。愛之助の狂 言師右近実はこうのとり(雄鳥)、山中鹿之介。 壱太郎の狂言師左近実はこうのとり(雌鳥)、東 蔵の赤松満祐。続いて「井伊大老 千駄ヶ谷井 伊家下屋敷」。白鸚の井伊直弼、魁春のお静の 方、歌六の仙英禅師。二部の最初が十世三津五 郎七回忌追善狂言「寿曽我対面」。巳之助の五 郎、時蔵の十郎、菊五郎の工藤、雀右衛門の大磯 の虎、松緑の朝比奈。巳之助に勢い、時蔵に柔 らかみと色気があった。続いて「連獅子」。仁左 衛門の狂言師右近後に親獅子の精、千之助の狂 言師左近後に仔獅子の精。前シテで仁左衛門が 仔獅子を慈しみ鍛える親獅子の思いを感じさ せ、後シテでは貫禄を出した。千之助は前シテ に若獅子らしい勢いがあり、後シテにシャープ さを見せた。三部は「花競忠臣顔見勢」。石川耕 士構成・演出、猿之助演出。「忠臣蔵」の外伝物 を綴り合せた。幸四郎、猿之助を上置きに若手 が活躍。

国立劇場は「一谷嫩軍記」。「御影浜浜辺」を前に付けて「熊谷陣屋」を上演。芝翫の熊谷、孝太郎の相模、鴈治郎の弥陀六、錦之助の義経、児太郎の藤の方。芝翫が芝翫型で勤め、相模の入りから見せる好舞台。

赤坂ACTシアターは「赤坂大歌舞伎」。「廓噺山名屋浦里」「越後獅子」。 勘九郎、七之助、扇雀らの出海

十二月は歌舞伎座と南座で公演が行われた。歌舞伎座は「十二月大歌舞伎」で三部制。一部は「新版 伊達の十役」。伊達騒動物の主要十役を猿之助が鮮やかに見せた。巳之助の八汐。二部の最初は「男女道成寺」。勘九郎の白拍子花子、尾上右近の白拍子桜子実は狂言師左近。続いて「ぢいさんばあさん」。勘九郎の伊織、菊之助のるん。三十七年ぶりの夫婦の再会の場面で変わらぬ情愛を二人が描き出した。三部の最初が「吉野山」。松緑の佐藤忠信実は源九郎狐、七之助の静御前。続いて「信濃路紅葉鬼揃」。玉三郎の鬼女、七之助の維茂、松緑の山神。

南座は「吉例顔見世興行」で三部制。一部は「坂田藤十郎三回忌追善狂言」が二題。最初が「晒三番叟」。 壱太郎の如月姫、虎之介の佐々木

小太郎行氏、鷹之資の結城三郎貞光。続いて「曽根崎心中」。鴈治郎の徳兵衛、扇雀のお初、梅玉の平野屋久右衛門、亀鶴の九平次。二部の最初が「三人吉三 大川端」。孝太郎のお嬢、隼人のお坊、芝翫の和尚。続いて「身替座禅」。仁左衛門の右京、芝翫の玉の井、隼人の太郎冠者。三部の最初が「雁のたより」。幸四郎の三二五郎七、愛之助の金之助、錦之助の高木蔵之進、千壽の司、吉弥のお玉。続いて「蜘蛛絲梓弦」。愛之助の蜘蛛の精など五役、幸四郎の頼光。

ほかには三月に海老蔵の巡業「古典への誘い」が「舞妓の花宴」「弁天娘女男白浪」があり、六月に市川海老蔵企画公演「いぶき、」が南座で行われた。最初が「妹背山婦女庭訓 願絲縁苧環、三笠山御殿」。児太郎のお三輪、芝のぶの橘姫、廣松の求女実は藤原淡海、九團次の鱶七。次が「乗合船」。同月、まつもと市民芸術館で「まつもと大歌舞伎」。コクーン歌舞伎と同配役の「夏祭浪花鑑」。八月は国立小劇場の「音の会」で「帯屋」。同月、同劇場で「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」。「春駒」「釣女」「魚屋宗五郎」。同月、国立文楽劇場で「上方歌舞伎会」。「引窓」「慣彩舞七以呂波」。九月に海老蔵の「古典への誘い」。「三升先代萩」。

五月に片岡秀太郎、十一月に中村吉右衛門が 亡くなった。

こだま・しょうこ

毎日新聞社学芸部専門編集委員。東京生まれ。 著書に「芝翫芸模様」(集英社)、「二代目 聞き 書き中村吉右衛門」(朝日文庫)、聞き書きに「十 代目坂東三津五郎」(NHK出版)、「84 八代目 中村芝翫」(光文社)など。

「商業演劇」

2021年の商業演劇

水落 潔

昨年2月に始まったコロナ禍は年が明けても 収まるどころか逆に増え続けた。感染者の急増 で政府は1月8日に三回目の緊急事態宣言を発 令し飲食店の時短営業を要請した。3月21日に 解除したが、その後再び増加し4月25日に四度 目の緊急事態宣言が発令された。そんな状況の 中でオリンピック、パラリンピックが強行さ れ、7月半ばから感染者が急上昇し8月13日には 東京だけで一日の新規感染者が5908人に達し た。政府のコロナ対策は後手に回り続け、内閣 支持率は次第に低下し菅首相は9月の自民党総 裁選への出馬を断念した。新しい総裁には岸田 文雄氏が選出された。直後行われた総選挙では 予想と違い自民党が大勝し岸田内閣が発足し た。6月以降やっとワクチン接種が本格化し、 10月1日に4回目の緊急宣言が解除された。11 月末には感染者数は減少したかに見えたが、11 月に入ってオミクロン株という新種が世界的に 大流行し、危機感を抱えながら年を越した。正 月に入って再び感染者が増加している。

劇場はコロナ感染を避けるため苦労した。多くの劇場が観客数を半分にして飲食や会話を禁止した。その努力で大劇場でのクラスター発生は無かったが、スタッフやキャストに感染者が出て公演が延期や中止になったケースは出た。観て食べて喋ってという総合レジャーの性格を持つ商業演劇は、団体客が一切取れぬこともあって今年も苦境を強いられた。若いフアンが多いミュージカル公演は観客が戻ってきたが、それ以外の公演は依然として観客数が低迷したままである。

新橋演舞場は今年も客席数を半減して公演した。1月が海老蔵を座頭とする歌舞伎公演、2月の前半は小野田勇作「与太郎めおと旅」を寺十吾が演出した喜劇「お染与太郎珍道中」で、渡辺えりと八嶋智人が主演した。江戸の米屋の箱入り娘のお染には侍の恋人がいたが、彼が京都勤めになったうえ大名家からお染を妾に差し出せという難題が来た。父はお染にドジな手代の与

太郎を付き添わせて京へ向かわせる。その道中で起こる様々な事件を綴った作品で、太川陽介、西岡徳馬、あめくみちこらが共演した。舞台は一通りの出来だった。

3月前半は舟木一夫のコンサート。12日から 築山桂原作、羽原大介脚本、神在ひろみ演出振 付「未来記の番人」を上演した。江戸前期、天海 大僧正に仕えている忍者の千里丸は聖徳太子が 遺した「太子未来記」を手に入れよとの命を受 け、兄貴分の士郎左と共に四天王寺に向かう。 その過程で「未来記」に関わる様々な人々と出会 い権力の姿に疑問を感じ始める。A.B.C-Zの戸 塚祥太が主演し曽我廼家寛太郎、笠原章、勝野 洋らが共演した青春時代活劇で平凡な出来に終 わった。後半はOSKの「春のおどり」でトップ スター桐生麻耶のサヨナラ公演。4、5月は恒例 の「滝沢歌舞伎ZERO」で滝沢秀明が演出し、 Snow Manが出演した。ジャニーズ事務所が 得意な絢爛としたショーで満員の観客を集めた が、4月25日に緊急事態宣言が出て以後の公演 は中止になった。

6月は「熱海五郎一座」で昨年上演中止になっ た吉高寿男作、三宅裕司構成、演出「Jazzyなさ くらは裏切りのハーモニー」を上演した。ゲス トには元宝塚歌劇のトップスター紅ゆずると AKB48の横山由依で、三宅のほか渡辺正行、ラ サール石井、小倉久寛、春風亭昇太らお馴染み のメンバーが顔を揃えた。太平洋戦争終盤のサ ンフランシスコを舞台に日系ミュージシャンた ちが巻き込まれた騒動を綴った音楽喜劇だった が笑いが弾まない舞台になった。7月は寺田夢 酔脚本、筒井庸助演出の「おあきと春団治」。大 正期から昭和初期にかけて浪花の爆笑王と呼ば れた落語家の桂春団治と、彼を売り出すために 全力を注いだ姉おあきの二人三脚の人生を描い た人情喜劇で、西川忠志が春団治、藤山直美が おあきを演じた。忠志の父の西川きよしが特別 出演し、田村亮、金子昇、大津嶺子らが共演した が舞台は平板だった。8月前半は恒例のOSKレ

ビュー夏のおどり「START」。新トップスター 楊琳の披露公演で得意の洋舞ショーであった。 9月は上演を重ねてきたジャニーズ事務所の「少 年たち」を新メンバーで上演した。10月は久し ぶりの新派公演で花柳章太郎追悼として真山青 果作、成瀬芳一演出「小梅と一重」と北條秀司 作、大場正昭演出「太夫さん」を上演した。「小 梅」は「假名屋小梅」の中の「芝居茶屋うた島」の 一幕で、小梅を河合雪之丞、一重を水谷八重 子、蝶次を瀬戸摩純が演じた。銀之助は喜多村 緑郎の予定だったが病気休演したため喜多村一 郎が代演した。「太夫さん」ではおえいを波乃久 里子、善助を田村亮、きみ子を藤山直美が演じ た。共に新派らしい時代性と生活感に溢れた好 舞台に仕上がったが観客の入りはあまり良くな かった。こうした芝居が受け入れられなくなっ たようだ。11月は昨年に続くジャニーズ事務 所の「虎者 NINJAPAN」でアクションを見せる 娯楽劇で、ファンの人気は高く恒例の公演に定 着するかも知れない。12月は舟木一夫公演で 芝居とコンサートの二本立て。芝居は浅田次郎 原作、齋藤雅文脚色、金子良次演出「壬生義士 伝」。貧しい家族を養うため新選組に入った異 色の剣士が主人公で、田村亮、山口馬木也、田口 守らが共演した。歌手公演が殆ど無くなった中 で一か月公演が出来る舟木一夫の根強い人気に 敬服する。コンサートは昼夜別の構成にした。 新派が新しい本拠地にしてきた三越劇場はコロ ナ禍が鎮静するまで休場した。

帝劇は例年通り年間ミュージカル路線を貫いた。1月は「ジャニーズ・ドリーム・ボーイズ」、2、3月は恒例の「エンドレス・ショック」、4月は「モーツァルト!」だったが、公演途中で休館、5月末から7月までは「レ・ミゼラブル」のロングラン。8月は「王家の紋章」、9月は「DRE AM BOYS」、10月は「ナイツ・テイル」、11月は「マイ・フェア・レディ」、12月は「A.B.C-Zジャニーズ伝説」というラインナップだった。

シアタークリエはミュージカルが主流だったが、昨年よりもストレートプレイの公演が増えた。1月がミュージカル「IF/THEN」だったがコロナで中止。2月はニール・サイモン作、小山ゆうな訳演出の「ローズのジレンマ」を上演した。ベストセラー作家だったローズも今は創作力が衰えたうえ贅沢な暮らしで経済的にも行

き詰っている。愛人だった作家オルシュは幽霊 になって、自分の未完の小説を若手作家の手を 借りて完成させることをローズに提案する。異 界と現実を結んで展開するコメディで大地真央 が主演し別所哲也、神田沙也加、村井良大が共 演した。3月は「ゴースト」、4月前半は「きみは いい人、チャーリー・ブラウン」とミュージカ ルが続いた。後半はシリーズになったKERAC ROSSでケラリーノ・サンドロヴィッチ作「カ メレオンズ・リップ」を河原雅彦演出で上演し た。20世紀初めのヨーロッパの古びた山荘の 主人ルーファスは、8年前に謎の死を遂げた姉 のドナにそっくりの使用人エレンディラーと暮 らしていた。ドナの命目、ドナの夫だったナイ フをはじめ所縁の人たちが次々にやって来る が、どの人物もうさん臭い。やがて奇妙な現象 が続き殺人事件が起こるというスリラー。松下 洸平、生駒里奈、岡本健一、シルビア・グラブら が出演したが舞台は一通りの出来であった。5 月は「ジャニーズ銀座2021」、6月は「CLUB7」、7 月は「ショー・ボーイ」とミュージカルを上演、 8月はテレビドラマを朗読劇に仕立てた「逃げ るは恥だが役に立つ」ほか。9月前半は「リト ル・ショップ・オブ・ホラーズ」、後半は「ドッ グファイト」と再びミュージカル路線になっ た。10月前半はプレミア音楽朗読劇「VOICARI ON」で、後半から11月半ばにかけてはローラ・ ウェイド作、白井晃演出「Home,I'mDarling~ 愛しのマイホーム~」を上演した。19年にロン ドンで初演したコメディで、主人公のジュディ は夫のジョニーと共に、夫が外で働き妻は家を 守るという50年代のライフスタイルを続けて いる。しかし実は家計は火の車。外の世界では 男女共働き家事分担は当たり前。そんなギャッ プが生み出すひずみが次第に浮き彫になるとい う現代的アイロニーで、鈴木京香が主演し高橋 克実、江口のりこ、銀粉蝶らが共演し洒落た喜 劇になった。11月はミュージカル「グリース」。 12月はテネシー・ウイリアムズ作、上村聰史演 出「ガラスの動物園」を上演した。作者の出世作 でこれまで繰り返した上演を重ねてきた名作 だ。演出は追憶劇という構成を強調して、劇全 体をトムの幻想という非リアルな舞台にした。 その結果一家を覆う閉塞感が見え難くなり、ア マンダが生活力のある母親というより異常な人 物に見えてしまった。岡田将生、麻実れい、倉 科カナ、竪山隼太が出演した。

明治座はや自主公演が減り貸館やテレビ 局、大手プロダクションとの提携公演が増え た。1月初めは玉野和紀「ニューイヤーズ・ド リーム」。14日から24日が「五木ひろし公演」の 筈だったがコロナで公演延期、29日から2月14 日はニッポン放送の「高田文夫のラジオビバ リー

| マルート

| リート

| アルート

| ア 京喜劇」で、高田のほか田中美佐子、宅間孝行、 原田龍二らが出演した。2月後半から3月は「坂 本冬美芸能生活35周年記念公演」で、橋田壽賀 子作、石井ふく子演出の「かたき同志」と「歌謡 ショー」の二本立て。泉ピン子が共演した。4 月は貸館で「香取慎吾特別公演」。5月は日本テ レビ製作の「魔界転生」。山田風太郎原作、マキ ノノゾミ脚本、堤幸彦演出で、上川隆也、小池徹 平、藤原紀香、村井良大、浅野ゆう子、松平健ら が出演した。6、7月は水谷千恵子、水森かお り、純烈らの短期公演で、8月には東宝製作の ミュージカル「エニシング・ゴーズ」を上演した が、関係者のコロナ感染で20日から休演、以後 の地方公演も中止になった。9月は黒澤明監督 の初期の映画「醉いどれ天使」を蓬莱竜太が脚 色、三池祟史演出、桐谷健太、高橋克典、高嶋政 宏、佐々木希らの出演で上演した。戦後の混乱 期の闇市で生きる医者とやくざの物語で水準に 達した舞台になった。後半は「ももいろクロー バーZ」、10月は「コロッケ」の公演で「令和千本 桜~義経と弁慶」という芝居と「ものまねオンス テージ」の二本立て。元宝塚の七海ひろきが共 演した。後半から11月初めは堤泰之脚本、ヨリ コジュン演出の「擾乱」。月半ばから見川鯛山原 作、水谷龍二脚本、ラサール石井演出「本日も休 診しを上演した。時は昭和、那須高原のてっぺ んの診療所を舞台にした人情喜劇で、柄本明が 診療所長を演じ花總まり、渡辺大輔、佐藤B 作、松金よね子らが共演した。芸達者が揃った ので楽しめる舞台に仕上がった。12月はミュー ジカル「忍たま乱太郎」ほか短期公演を並べた。

前進座は1月の南座で小山内薫作、川名あき 演出「息子」と狂言舞踊「茶壺」を上演した。1月 後半からはA班「文七元結」とB班「ひとごろし」 二班に分かれて全国巡演をした。5月の国立劇 場公演は一部が「操り三番叟」、津上忠作、小野 文隆改訂、演出「たが屋の金太」、二部が「茶壺」、「俊寛」という狂言立てだった。7、8月は「東海道四谷怪談」を全国巡演した。9月は前進座創立90周年記念公演として文楽劇場で山田洋次・朱海青脚本、小野文隆演出「一万石の恋」を上演した。落語「妾馬」を素材にした人情喜劇だが、落語と違って長屋の娘が出世を拒んで好きな男と結ばれる。その嘘を貫くため長屋中が協力するという筋立てだった。国太郎が赤井御門守と長屋のおかね婆、矢之輔が三太夫、芳三郎が兄八五郎、有田佳代が娘お鶴を演じた。10月に新国立劇場でも上演した。11、12月は小池章太郎作「牛若丸」を全国巡演した。

シーエイティプロデュースが8月に世田谷パブリックシアターでアガサ・クリスティー作、小川絵梨子訳演出「検察側の証人」をジャニーズWESTの小瀧望と瀬奈じゅん主演で上演した。 兵庫、大阪でも上演した。面白い舞台になったフジテレビが1月に新国立劇場でトム・シュルマン脚本、上田一豪台本演出「いまを生きる」を再演した。アメリカの全寮制男子校を舞台にした青春ドラマで佐藤隆太が主演した。フジテレビは6月にも同劇場で森見登美彦原作、上田誠脚本、演出「夜は短し歩けよ乙女」を上演した。歌舞伎の中村壱太郎と乃木坂48の久保史緒里が主演した。

KAAT(神奈川芸術劇場)は4月に新らしい芸術監督に長塚圭史が就任し、従来の路線に加えて商業演劇で上演した作品のリメイクを始めた。5月にはアトリウムに特設劇場を創り、北條秀司作「王将」を長塚圭史の構成台本・演出で三部作として上演した。福田転球、大堀こういち、山内圭哉、常盤貴子らが出演した。8月末から9月にかけては大スタジオで河竹黙阿弥作「三人吉三」を野木萌葱が現代劇に翻案した「港横浜荒狗挽歌」をシライケイタ演出で上演した。9月にはホールで秋元松代作「近松心中物語」を、長塚演出、田中哲司、松田龍平、笹本玲奈、石橋静河らで上演した。いずれも成果については賛否が分かれたが、新しい試みとして注目される。

御園座は今年も東京の舞台の引っ越し公演が多かった。1月が「芸能生活40周年コロッケ特別公演」ほか。2月は「ニュースペーパー」、「由紀さおり」の短期公演の後、医療ドラマ「ド

クター・ブルー」を内博貴、松下優也、高島礼子 らの出演で上演、後半はミュージカル「ポーの 一族」だった。3月は「里見浩太朗公演」で「水戸 黄門」と「歌謡ショー」の二本立て。純烈が共演 した。4月は「海老蔵」の歌舞伎公演で、後半が ミュージカル「ウェイトレス」、5月はミュージ カル「ゴヤ」、6月は「滝沢歌舞伎ZERO」、7月は ミュージカル「17AGAIN」と「細川たかし45周年 公演」の後、歌手の短期公演。8月は「よしもと 若手公演」や「吉本新喜劇」など短期公演の後「梅 沢劇団と泉ピン子」、ミュージカル「ピーターパ ン」。9月はミュージカル「エニシング・ゴーズ」 の筈だったが関係者のコロナ感染で中止になっ た。10月は玉三郎の歌舞伎。11月はミュージ カル「グリース」の後、大地真央、中村梅雀の「夫 婦漫才」、12月は「虎者」「よしもと爆笑公演」「ら くご祭」など。

松竹座は新橋演舞場と連携した公演が多 かった。1月が「玉三郎特別公演」で、月末に SKDレビュー「春の踊り」を上演した。2月は「お 笑い寄席」、「狂言の会」などの短期公演。3月は 関ジャニJrの「ANOTHER」、4月前半は「未来記 の番人」の引っ越し公演。後半は「アンタッチャ ブル・ビューティ」を上演する予定だったが、 関係者のコロナ感染が分かり中止になった。5 月の「おあきと春団治」も緊急事態宣言が出て中 止になった。6月のOSKレビュー「夏の踊り」か ら公演を再開したが土日の公演を休むなどコロ ナ対策に追われた。7月は恒例の「歌舞伎」、後 半から8月は関西ジャニーズJr.の「サマー・ス ペシャル2021」、9月は「老後の資金がありませ ん、10月は「花形歌舞伎」、11月は松竹新喜劇で 「お家はんと直どん」「お祭り提灯」とお馴染み狂 言の二本立て。12月は関西テレビと提携した 「大阪環状線」を上演した。

新歌舞伎座は今年も歌手のコンサートが中心だったが、東京で上演した話題作を短期間上演する試みも増え独自色を出している。1月は昨年明治座で上演した「両国花錦園士」、プレミアム朗読劇「大阪歴史絵巻」、ホリプロの「てにあまる」など。2月は「神野美伽」「長山洋子」のコンサートの後、東宝の「ローズのジレンマ」、3月は「三山ひろし」のコンサート、4月はこまつ座の「日本人のへそ」と東宝のミュージカル「ゴースト」、天童よしみ、5月は島津亜矢、八代

亜紀、前川清、川中美幸、坂本冬美らの公演を予定していたが緊急事態宣言ですべて中止した。6月は日本テレビの「魔界転生」と「山内惠介」、「北島三郎」、「氷川きよし」ら。7月は「水森かおり」の後・NODA・MAPの「フェイクスピア」、ミュージカル「SHOW BOY」。8月は「梅沢劇団と泉ピン子」のあと歌手のコンサート。9月は前半が「ジェイミー」で、後半の「エニシング・ゴーズ」は中止。10月は明治座の「醉いどれ天使」の引っ越し公演で、後半は「夫婦漫才」、11月は「中村美律子」、「坂本冬美」「由紀さおり」、「宇崎竜童」らのコンサート、12月は「島津亜矢」のコンサートとミュージカル「グリース」というラインナップだった。

南座は1月は前進座公演の後、松竹新喜劇で「二階の奥さん」、「鴨八ネギ次郎」を上演、2月は演舞場の「お染与太郎珍道中」の引っ越し、3月は「花形歌舞伎」。4月は「都をどり」の予定だったがコロナ禍で中止、その後4、5月の「舞台体験ツアー」や「舟木一夫」のコンサートも中止した。6月は「海老蔵」の歌舞伎、7月は松竹新喜劇で新作の「一休さん」と「愛の小荷物」を上演した。8月は「玉三郎」の舞踊公演、9月は獅童の「超歌舞伎」、10月は「虎者」、11月は「舞台体験ツアー」、12月は恒例の「顔見世」だった。

博多座は1月が「ローマの休日」、「両国花錦園士」、2月が「花形歌舞伎」、3月が「藤山寛美没後30年喜劇特別公演」で藤山直美、喜多村緑郎、河合雪之丞、林与一らで「大阪ぎらい物語」を上演、4月が「ウェイトレス」、「魔界転生」、5月がシンフォニー音楽劇「蜜蜂と遠雷」、「越路吹雪40回忌コンサート」、6月が「歌舞伎」、7月が九州の港町を舞台にした博多華丸出演、G2作・演出「羽世保スウィングボーイズ」を上演した。8月は「レ・ミゼラブル」の予定だったがコロナで中止。9月は「王家の紋章」は上演したが「エニシング・ゴーズ」は中止。10月は「宝塚歌劇月組」、11月は「夫婦漫才」と「ナイツ・テイル」、12月は例年通りに市民に貸し出した。

今年も多くの演劇人が亡くなった。俳優の田中邦衛(3月24日、88歳)、田村正和(4月3日、77歳)、隆大介(4月11日、64歳)、若松武史(4月14日、70歳)、片岡秀太郎(5月23日、79歳)、李麗仙(6月22日、79歳)、ジェリー藤尾(8月14日、81歳)、辻萬長(8月18日、77歳)、中村吉右衛門(11

月28日、77歳)、神田沙也加(12月18日、35歳)、 演出家の川和孝(1月14日、88歳)、鴨下信一(2 月10日、85歳)、瓜生正美(6月27日、96歳)、作 家の橋田壽賀子(4月4日、95歳)、清水邦夫(4月 15日、84歳)、瀬戸内寂聴(11月9日、99歳)、歌 舞伎研究家の鳥越文蔵(4月5日、89歳)、フラン ス文学者で演出家の渡辺守章(4月11日、88歳)、フランス文学者で評論家の渡辺淳(10月20日、98歳)、瀬川昌久(12月29日、97歳)、清元美 治郎(6月5日、76歳)、竹本の鶴澤正一郎(11月 17日、90歳)、歌舞伎画家の鳥居清光(5月24日) の各氏である。謹んでご冥福を祈りたい。

みずおち・きよし

1936年大阪生まれ、早稲田大学演劇科卒、毎日 新聞社(東京)学芸部演劇記者を経て桜美林大学 教授。著書に「上方歌舞伎」、「文楽」、「平成歌舞 伎俳優論」ほか。日本演劇協会理事、桜美林大 学名誉教授。

[現代演劇]

コロナ禍の中で意欲作を相次いで上演

林 尚之

新型コロナウイルスの影響は2021年も続いた。3度の緊急事態宣言で公演が中止となったり、途中で打ち切りのケースが相次いだ。コロナ陽性者が出て、中止や初日を延期した公演もあり、演劇界全体が大きな損害を被った。予定された海外からの来日公演も、フランスの太陽劇団、パリのオデオン劇場制作の「ガラスの動物園」が中止となった。観客側にとって身近な影響は開演時間が早くなったことだった。以前は会社帰りの演劇ファンを想定して午後7時開演が多かったが、コロナ禍以降は30分から1時間前倒しとなり、9時前に終演する公演が増えた。ここ数年は観客が夜の部よりも昼の部を選択する傾向が顕著だったが、コロナ禍はその傾向に拍車をかけている。

今年も小劇場を中心に活躍する40代の劇作家による意欲作が相次いだ。演劇ユニット「iaku」を主宰する横山拓也は2年半ぶりに「逢いにいくの、雨だけど」を再演した。子供のころに片方の目を失明した男と、その原因となった女の再会を通して「許し」の意味を問う作品。新作が2本続けて上演され、iaku公演「フタマツヅキ」は、落語「初天神」をモチーフに落語家の父と息子との不器用な関係を描いた。文学座に初めて書き下ろした「ジャンガリアン」(演出松本祐子)は、大阪のとんかつ屋を舞台に後継ぎや働く外国人留学生の問題を織り込みながら、人の優しさが心地よい舞台だった。

劇団チョコレートケーキの古川健の新作「帰還不能点」(演出日澤雄介)は、開戦直前に米国と戦争した場合の戦局を検証したエリート官僚が終戦後に再会し、必敗を予測しながら暴走する軍部、政府をなぜ止められなかったかを論じあう中で無責任の体系が浮き彫りとなる。劇団公演で10年ぶりに再演した古川作、日澤演出「一九一一年」は12人に死刑執行された大逆事件をめぐる検察と弁護側の攻防を生々しく再現した。

トラッシュマスターズの中津留章仁が作・

演出した「堕ち潮」は九州の田舎町の建設業一家 を軸に、世代で異なる価値観のぶつかり合いを 通して戦後史をあぶりだした。青年劇場に書き 下ろした「ファクトチェック」は権力と報道する 現場のあるべき距離感を問う作品で、「ガラクタ」は原発の廃棄物受け入れを巡って対立する 町を舞台にした。

イキウメの前川知大は、「イキウメの金輪町 コレクション」で奇妙な事件や都市伝説で有名 な町を舞台に短編、落語で身近な不条理を描 き、作・演出した「外の道」は久しぶりに再会し た男女の奇妙な体験を通して日常が崩壊する過 程を描いた。

モダンスイマーズの蓬莱竜太が作・演出した「首切り王子と愚かな女」(主演井上芳雄)は架空の王国を舞台に傍若無人な王子と運命の出会いをする女を巡る大人の寓話劇。黒澤明監督の名作映画を舞台化した「醉いどれ天使」(桐谷健太)の脚本も担当した。

瀬戸山美咲は、栗山民也演出「彼女を笑う人がいても」(瀬戸康史)で現代と60年安保の時代を交錯させながら、マスコミと政治の在り方を問う作品を手掛けた。

ベテランの秀作が続いた。野田秀樹が作・演出したNODA・MAP公演「フェイクスピア」(高橋一生)は恐山のイタコの口寄せやシェークスピアの4大悲劇のセリフも引用した多層な展開の末に、日航機事故の機長室のやりとりを再現し、制御を失った状況の恐怖が見る者を圧倒した

ケラリーノ・サンドロヴィッチは演劇ユニット「ケムリの研究室」第二弾で、安部公房の小説をもとに上演台本・演出した「砂の女」(緒川たまき)を上演。砂の谷底の家に閉じ込められた男女のドラマで、緒川は紀伊國屋演劇賞を受賞した。ナイロン100°Cの3年ぶり新作「イモンドの勝負」(大倉孝二)は主人公を取り巻く不思議な出来事、体験を通して観客も異空間に巻き込むケラワールド全開の舞台。

JACROWの中村ノブアキは、新丹那トンネルの工事現場を舞台に箱根駅伝や初島に伝わる龍神伝説を絡めた椿組「貫く閃光、彼方へ」(高橋正徳演出)を書き下ろし、JACROW公演では出世を目指す男たちの計略、嫉妬、憎悪を描くビジネスドラマ「鋼の糸」、戦後日本のリーダー吉田茂首相を通して、憲法、天皇を問う「廻る礎」を上演した。

鄭義信は、悲劇的な歴史に翻弄された、謎の 多い朝鮮の舞姫を主人公に「母 My Mother」 を上演した。

二兎社の永井愛が作・演出した「ザ・空気ver.3 そして彼は去った」(佐藤B作)は政治と報道現場の危うい関係を描いたシリーズ三部作の最終作で、かつての反骨心あるジャーナリストがゴリゴリの保守派に変貌する姿が苦い笑いを生んだ。大逆事件の裁判を巡って苦悩する森鴎外を描いた『鴎外の怪談』を再演し、主演した松尾貴史は紀伊國屋演劇賞を受賞した。

詩森ろばは、主宰するユニット「シリアル ナンバー」で旧作「hedge」「insider」に加えて新作「trust」の金融エンターテインメント三部作を上演。児童小説をもとに脚本・演出を手掛けた「岬のマヨイガ」(竹下景子)は東日本大震災後の人とのつながりと再生を描き、作・演出「すこたん」は90年代のゲイカップルが歩んだ30年の軌跡の物語。

公共劇場では劇場の顔である芸術監督の交 代が相次いで決まった。

さいたま芸術劇場は16年に蜷川幸雄さんが亡 くなった後は空席だったが、22年4月からコン ドルズを主宰するダンサーの近藤良平が就任す ることが発表された。また、蜷川さんの「遺産」 が相次いで最後を迎えた。開館間もない同劇場 で、シェークスピア全37戯曲を上演する「彩の 国シェイクスピア・シリーズ」を始め、98年「ロ ミオとジュリエット」を皮切りに市村正親、大竹 しのぶ、唐沢寿明、阿部寛らを主演に名物シリー ズとして多くの観客を集めた。蜷川さんの没後 はシリーズ二代目芸術監督の吉田鋼太郎が演出 を引き継ぎ、石原さとみ、藤原竜也主演「終わり よければすべてよし」で大千秋楽を迎えた。ま た、「さいたまゴールド・シアター」「さいたま ネクスト・シアター」は21年限りで解散した。 ゴールド・シアターは06年に55歳以上の高齢 者を対象にオーディションを行い、55歳から80 歳までの48人が入団。清水邦夫作「鴉よ、俺た ちは弾丸を込める」でパリ公演を行うなど、多 彩な活動を行ったが、団員の高齢化が進み、解 散となった。最終公演は太田省吾の無言劇「水 の駅」を杉原邦夫が演出。71歳から95歳までの 団員が出演した。ネクスト・シアターは次世代 の演劇界を担う若手俳優の育成を目的に09年 に設立され、18歳から30歳までの44人でス タートした。「真田十勇士」「リチャード二世」を 上演したが、蜷川さん亡き後は他劇団や芸能事 務所に移り、劇団員も減少したため解散を決め た。最後の公演は岩松了演出、細川洋平作「雨 花のけもの」で、社会になじめない若者がペッ トとして富裕層に飼われる世界を舞台に、格差 社会の問題を浮き彫りにした。

神奈川芸術劇場では白井晃から長塚圭史に代わり、意欲作が続いた。岡田利規の作・演出「未練の幽霊と怪物一『挫波(ザハ)』『敦賀(つるが)』一」は夢幻能の形を借りて、「挫波」は新国立競技場のデザイン案を撤回された建築家ザハ・ハディド、「敦賀」は高速増殖炉もんじゅをめぐる核燃料政策をそれぞれシテにして描き、鶴屋南北戯曲賞を受賞した。上演時間が6時間に及ぶ北條秀司作、長塚演出「王将」三部作、横浜・野毛を舞台にしたタニノクロウ作・演出「虹む街」、歌舞伎「三人吉三」に想を得た野木萌葱作、シライケイタ演出「湊横濱荒狗挽歌」、秋元松代の名作を長塚が演出した「近松心中物語」(田中哲司、笹本玲奈)が上演された。

新国立劇場は、小川絵梨子芸需監督が推進するフルオーディションで三好十郎作、上村聡史演出「斬られの仙太」、宮本研作、千葉哲也演出「反応工程」、同じく作品創造プロジェクト「こつこつプロジェクト」で別役実作、西沢英治演出「あぶくにいたった」は時間をかけて制作した成果が感じられた。長編アニメを舞台化した土屋理敬上演台本、藤田俊太郎演出「東京ゴッドファーザーズ」(松岡昌宏)は3人のホームレスが遭遇する奇跡の物語で、井上ひさし作、小川絵梨子演出「キネマの天地」(鈴木杏)は4人の女優が殺人事件に巻き込まれる井上流推理喜劇。

東京芸術劇場は、芸術監督野田秀樹の新旧の 作品が上演された。新作「フェイクスピア」に対 し、旧作は「パンドラの鐘」を熊林弘高、「カノン」を野上絹代がそれぞれ演出した。暴力の連鎖を描く「THE BEE」(阿部サダヲ、長澤まさみ)は9年ぶりに新キャストの上演で、野田は出演せず演出に専念した。

世田谷パブリックシアターも22年4月に野村 萬斎から白井晃への交代が決まっている。木下 順二作、野村萬斎演出・主演の「子午線の祀り」 をより凝縮した新演出で上演。ワジディ・ムワ ワド作、上村聡史演出「森 フォレ」(成河)は 「約束の血」4部作の第三弾で、母の死をきっか けに自身のルーツをたどることになった少女の 物語。上村は同作品で紀伊國屋演劇賞を受賞し た。フリッツ・カーター作、小山ゆうな演出「愛 するとき 死するとき」(浦井健治)は、ベルリ ンの壁崩壊前の社会主義体制下で青春期を過ご した作家の体験をもとにした作品。

パルコ劇場は、オープニングシリーズで井上 ひさし作、杉原邦生演出「藪原検校」に市川猿之 助が挑み、昨年は途中で公演中止となった「ピ サロ」(渡辺謙)を再演。「月とシネマ」(中井貴 一)は出演者にコロナ陽性者が出て中止した。 原田マハ作、行定勲演出「リボルバー~誰が 【ゴッホ】を撃ち抜いたんだ?~」(安田章大) は、ゴッホの死をめぐる謎に現代のオークショ ニストが迫るミステリー。サーモン・スティー ヴンス作、松居大悟演出「Birdland」(上田竜平) は世界的なロックスターの世界ツアー最後の一 週間を描く。森新太郎演出によるシェークスピ アの歴史劇「ジュリアス・シーザー」はブルータ スを吉田羊、シーザーをシルビア・グラブとす べて女性キャストで固めた異色作だが、違和感 はなく、吉田はこの演技で紀伊國屋演劇賞を受 賞した。ロバート・アイク作、栗山民也演出 「ザ・ドクター」(大竹しのぶ)は、エリート医師 が患者の少女の死をきっかけに、様々な問題に 直面する中で自らを見つめ直す。

シアターコクーンは、ユージン・オニール作、フィリップ・ブーリン演出「夜への長い旅路」 (大竹しのぶ)はオニールの自伝劇で、青春時代の家族の姿を描いた。三浦大輔作・演出「物語なき、この世界」(岡田将生)は、売れない俳優とミュージシャンの10年ぶりの再会から物語が動き出す。藤本有紀作、松尾スズキ演出「パ・ラパパンパン」(松たか子)は、崖っぷちのティーン

向け小説家が妄想するミステリーコメディ。

文学座は、夏目漱石の名作「虞美人草」を翻案したマキノゾミ作、西川信廣演出「昭和虞美人草」で幕を開けた。1973年の東京を舞台にロック雑誌を刊行する若者たちの群像劇。マーガレット・エドソン作、西川信廣演出「ウイット」はガンを患った英文学の女性教授を主人公に、生きるとはを問いかける作品。1974年に文学座で初演され、つかこうへいの出世作ともなった「熱海殺人事件」を48年ぶりに稲葉賀恵の演出で上演。木村伝兵衛役の石橋徹郎のパワフルな演技が際立った。ノーベル賞作家ハロルド・ピンターの短編を構成した的早孝起演出「Helloへハロルド・ピンター作品6選〜」は「家族の声」「灰から灰へ」など6作品を一挙上演した。

民藝では、三好十郎作、田中麻衣子演出「地熱」は炭鉱町で出会った若い男女の純愛と労働を通して人間の本質を描き出した。「どん底一1947・東京」はゴーリキーの名作を吉永仁郎が戦後の新橋を舞台に翻案し、演出は丹野郁弓。カナダの作家ジョン・マレル作。田中麻衣子演出「パレードを待ちながら」は、戦争に夫を送り出した銃後の女性たちを描いた。井伏鱒二の小説を吉永仁郎が脚色した「集金旅行」(演出は高橋清祐、中島裕一郎)は、安アパートの滞納金取り立てをめぐる人間模様を描いた。

俳優座は、革命前ロシアの大公暗殺事件をめ ぐり革命に身を投じた若者たちの苦悩と葛藤を 描くカミュ作、小笠原響演出「正義の人びと」で 年頭を飾った。ケストナー作、小山ゆうなの上 演台本・演出「雪の中の三人」はドイツの高級リ ゾートホテルを舞台にしたシニカルなコメディ。 英国の大衆紙の編集現場を舞台に熾烈な部数競 争とスキャンダルに走る報道の在り方を問う ジェイムズ・グレアム作、眞鍋卓嗣演出「イン ク」、彗星の光が襲った町に現れた1人の男が戒 厳令を敷いたことから混乱が起こるカミュ作 「戒厳令」(構成・演出眞鍋)、オーストラリアで 定着している調停人による当事者同士の和解に 向けた会議を描いたデヴィッド・ウィリアムソ ン作、森一演出「面と向かって」を上演。充実し た舞台成果で紀伊國屋演劇賞の団体賞を受賞し

青年座では、岩瀬晶子作、須藤黄英演出「シェ アの法則」がシェアハウスを舞台にしたハート フルな人情劇。バートレット作、伊藤大演出「アルビオン一白亜の地イングランド」は事業の成功で大邸宅を手にした主人公を通して、EU離脱を決めた英国の今を描いた。野木萌葱作、黒岩亮演出「ズベズダー荒野より宙へ一」は米ソの宇宙開発競争を背景にロケット開発にかけたソ連の科学者の姿を描いた。

青年劇場では、福山啓子作、関根信一演出「囲まれた文殊さん」が自衛隊と米軍基地がある町の人々を通して共存の矛盾を描いた。

文化座では、竹山道雄原作、杉浦久幸脚本、鵜山仁演出「ビルマの竪琴」が凄惨な戦場だったビルマを舞台に戦争の虚しさを浮き彫りにする。リリアン・ヘルマン作、西川信廣演出「子供の時間」は理想の教育を目指した女性教師2人が生徒の虚言に翻弄される悲劇。

劇団昴では、中島淳彦作、北村総一朗演出「プカプカ漂流記」は1970年代にあった「イエスの方舟」事件を題材にした作品。コナー・マクファーソン作、小笠原響演出「TheWeirー堰」はアイルランドの片田舎のバーで語られる奇妙な物語。ディケンズ原作、ジョン・モーティマー作、河田園子演出「クリスマス・キャロル」は冬の定番演目。

演劇集団円は、マクドナー作、寺十吾演出「ピローマン」を延期し、シェークスピア作、鈴木勝 秀演出「夏の夜の夢」、水木しげる原作、京極夏彦脚本、内藤裕子演出「河童の三平」を上演した。

東演では、中国の作家余華の原作、松本祐子 脚本・演出「血を売る男」が中国の文革時代に血 を売ることで家族を守った男の物語。ロシアの ベリャコーヴィッチ演出「マクベス」を再演した。

劇団桟敷童子は、戦時下の貧しい村を舞台に家族の再生と無残に打ち砕く戦争の不条理を描いたサジキドウジ作、東憲司演出「獣歌2021改訂版」(村井國夫)、終戦直後の福岡の炭鉱町で起きた死者147人のトンネル爆発事故を取材し、その不条理を描いた新作「飛ぶ太陽」を上演した。

創立40周年の劇団扉座では、横内謙介作・演出「解体青茶毘」は人体解剖にかけた江戸の蘭方医たちの姿を描いた。つかこうへい原作を横内が脚本・演出した「扉座版 二代目はクリスチャン」(石田ひかり)、自らをモデルにした青春グラフティーの横内作・演出「ホテルカリフォルニアー私戯曲 県立厚木高校物語」を上演。

劇団朋友では、中脇初枝原作、古城十忍脚本・演出「世界の果てのこどもたち」は3人の女性の戦中、戦後の幼少期の出会いから70代までを描く物語。

19年から公演活動を休止した演劇集団キャラメルボックスが成井豊作・演出「サンタクロースが歌ってくれた」で活動を再開した。

日本劇団協議会による文化庁海外研修の成果公演、アラン・ベネット作、河田園子演出「僕の庭のLady」(旺なつき)は、ベネットが体験した実話をもとに他人の庭にバンを止めて生活した老婦人を主人公にした作品。

ホリプロは、アントニー・シェーファーの傑作ミステリー「スルース」(吉田鋼太郎、柿沢勇人)を吉田の演出で上演し、井上ひさし作、蜷川幸雄演出「ムサシ」(藤原竜也)は蜷川さんの七回忌追悼記念公演として再演。

シスカンパニーは、三谷幸喜作・演出「日本の歴史」(中井貴一)を再演し、安部公房作、加藤拓也上演台本・演出「友達」(鈴木浩介)は見知らぬ9人の家族に部屋を占拠され、不条理な状況に追い込まれる男を描く。トム・ストッパード作、小川絵梨子演出「ほんとうのハウンド警部」(生田斗真)は、実際の芝居に加えて舞台上でもう1つの劇中劇が展開し、虚実がめまぐるしく転換する作品。

井上ひさし作品を上演するこまつ座では、栗山民也演出「日本人のへそ」(井上芳雄)を10年 ぶりに再演し、原爆を背景にした鵜山仁演出「父と暮せば」(山崎一、伊勢佳世)、畑澤聖悟作、栗山演出「母と暮せば」(富田靖子、松下洸平)を連続上演。栗山演出「雨」(山西惇)は拾い屋の徳の残酷な運命を描き、一人芝居二本立ての鵜山演出「化粧二題」(内野聖陽、有森也美)は大衆劇団の女座長と男座長が幼いころに別れた息子、母との再会をめぐる物語。内野は同舞台の演技成果で芸術祭優秀賞を受賞した。鵜山演出「雪やこんこん」(熊谷真実)は崩壊寸前の大衆劇団の女座長一座の楽屋裏を描いた。

名取事務所は創立25周年記念公演として、鈴木大拙と息子の相克を描いた堤春恵作、扇田拓也演出「東京ブギウギと鈴木大拙」、丸山ワクチンをめぐる医師親子の対立を描く内藤裕子作・演出「灯は佇む」、レイプ事件をめぐり性暴力の問題、家族の犯罪をどう受け止めるかを描いた

韓国の李ボラム作、扇田演出「女は泣かない」を 上演した。

加藤健一事務所では、ロナルド・ハーウッド作、鵜山仁演出「ドレッサー」は老俳優と付き人の確執と葛藤を描き、ジョン・マーレイ、アレン・ボレッツ作、堤泰之演出「THE SHOW MUST GO ON〜ショーマストゴーオン〜」は資金難から上演が危ぶまれる舞台の幕を開けようと奔走するショーマンの奮闘劇。グレアム・グリーン原作、ジャイルズ・ハヴァガル脚色、鵜山仁演出「叔母との旅」は母との葬儀で久しぶりに再会した叔母との旅を通して再生する男の物語。加藤ら4人の俳優が老若男女20数役を変幻自在に演じ分けた。

トム・プロジェクトでは、シライケイタ作・ 演出「モンテンルパ」(大和田獏)はフィリピンの 刑務所に収容された戦犯たちの運命を描いた。 田村孝裕作・演出「たぬきと狸とタヌキ」(榊原 郁恵)、同じく田村作・演出「狸の里帰り」(柴田 理恵)はともに介護施設を舞台にした作品で、 水谷龍二作・演出による風間杜夫のひとり芝居 「帰ってきたカラオケマン」は牛山明を主人公に した11年ぶり新作。東憲司作・演出「にんげん 日記」(小野武彦)は戦後の混乱期の下町の銭湯 を舞台にした人々の再生ドラマ。

シーエイティープロデュースでは、アガサ・ クリスティ作、小川絵梨子の翻訳・演出「検察 側の証人」(小瀧望) は緊張感ある演技の応酬が 展開される法廷ミステリー。

オフィスコットーネは、連合軍のノルマンジー上陸後のフランスを舞台にしたサルトル作、稲葉賀恵演出「墓場なき死者」を上演。翻訳の岩切正一郎は小田島雄志・翻訳戯曲賞を受賞した。風姿花伝プロデュースで、ジョン・パトリック・シャンリィ作、小川絵梨子翻訳・演出『ダウト』(那須佐代子)を上演。ミッションスクールを舞台に『疑い』をめぐる濃密な会話劇で、「悲劇喜劇」賞を受賞した。

1960、70年代から活躍した演劇人の訃報が相次いだ。唐十郎率いる状況劇場(現在は唐組)の主演女優だった李麗仙さんが79歳で亡くなった。「少女仮面」「腰巻お仙」などに主演し、「アングラの女王」とも言われ、唐作品には欠かせない女優だった。劇作家清水邦夫さんは84歳で亡くなった。蜷川幸雄さんとのコンビで「真

情あふるる軽薄さ」「ぼくらが非情の大河をくだる時」など反抗する若者を描いた作品や、「エレジー」「タンゴ、冬の終わりに」など詩情豊かな作品を発表。妻で女優の松本典子さんとともに木冬社を結成し、「楽屋」などを上演した。また、唐、寺山修司さんの作品は今年も数多く上演された。唐作品は、シアターコクーンで金守珍演出「泥人魚」(宮沢りえ)が初演から19年ぶりに上演され、唐組「少女都市からの呼び声」、新宿梁山泊「ベンガルの虎」、劇団唐ゼミ「唐版風の又三郎」を上演。唐は文化功労者に認定された。寺山作品も初期の未発表だった音楽劇「海王星」(山田裕貴)や「迷路と死海」などが上演された。

はやし・なおゆき

2020年に日刊スポーツ新聞社を退社するまで 主に文化部で演劇・演芸を担当。年間約300本 の舞台などを観劇してきた。文化庁芸術祭、芸 術選奨、鶴屋南北戯曲賞などの選考委員、国立 劇場養成事業委員などを務める。

[ミュージカル]

2021年のミュージカル —"いま"に通じる社会性

横溝幸子

2021年は新型コロナで1年遅れになった東京 五輪開催の年として活気を呈する筈が、コロナ は沈静化するどころか、年初から出された緊急 事態宣言が次々延長されて第五次まで続き、あ る程度自由になったのは9月30日だった。12月 には変異種のオミクロン株による患者がふえ始 め、希望のない1年だった。それでもミュージ カル界は新作、再演が入り乱れ、漫画やTVアニ メにとどまらず人種差別、ジェンダー、格差な ど社会問題に切り込む作品の上演がふえた。

ミュージカル界のコロナ騒動

正月気分が続く1月8日から2月7日まで1都3県(神奈川・千葉・埼玉)に緊急事態宣言が出された。対象地域の劇場は原則として「20時まで5000人以下、収容定員の50%以内」なら公演は可能だった。宝塚歌劇宙組「アナスタシア」は開演時間を繰り上げる対応をした。柚希礼音主演「イフ/ゼン」(1月8日~2月1日 シアタークリエ)は、出演者にコロナ感染者が出て公演は全面中止に。三浦春馬主演予定の「イリュージョニスト」(1月18日~29日 日生劇場)は三浦の自死で海宝直人主演に代わったが、コンサート形式(1月27日~29日)の短期公演に変更された。

さらに4月25日から5月11日まで3度目の緊急事態宣言で、公演中の「滝沢歌舞伎 ZERO 2021」(新橋演舞場)、今井翼主演「ゴヤーGOYA」(日生劇場)、宝塚歌劇花組「アウグストゥスー尊厳ある者」(宝塚大劇場)、宙組公演「夢千鳥」(バウホール)、星組公演「ロミオとジュリエット」(東京宝塚劇場)、「モーツァルト!」(帝国劇場)、「ジャニーズ銀座 2021 TOKYO EXPERIENCE」(シアタークリエ)など一部公演中止の影響を受けた。とくに気の毒だったのは、子役が活躍する「アニー」(4月24日~5月10日 新国立劇場中劇場)である。初日のカーテンコールで4月25日からの公演中止を発表。長い稽古を重ねてきた少女たちの泣きそうな表情が胸を打った。

6月21日に「まん延防止等重点措置」(7月11日

まで)に変わったが、7月12日から4回目の緊急 事態宣言で、東京五輪もパラリンピックも無観 客で開催された。この宣言の期間延長が5次ま で続き、終了したのは9月30日である。元宝塚 星組トップスター紅ゆずる主演「エニシング ゴーズ」(8月1日~29日 明治座、9月4日~12 日 御園座、9月17日~26日 大阪・新歌舞伎 座、9月30日~10月5日 福岡・博多座)は、 ニューヨークのナイトクラブの大スターリノ (紅ゆずる)が惚れたビリー(大野拓朗)をロンド ン行の船に誘ったことから騒動が起こるコメ ディ・ミュージカル。コール・ポーターの軽快 な曲に乗って何でもありの船旅。歌舞伎俳優の 市川猿弥も出演する話題作だが、初日が11日に 延期された上、公演中に23人がコロナに感染 し、結局7公演だけで全公演中止された。

オリジナル・ミュージカルを東京でも上演 する劇団「わらび座」は、秋田県仙北市の拠点劇 場への修学旅行生の減少、学校公演中止の影響 を受け、民事再生法の適用を申請した。

劇団四季が「アナと雪の女王」上演

2020年は2月から4月半ばまでの公演中止のために全公演スケジュールに狂いが生じた劇団四季は、JR東日本四季劇場[春]のこけら落とし公演を「アナと雪の女王」から「The Bridge〜歌の架け橋」(1月10日〜2月11日 9月まで全国公演)に変更した。おなじみの海外ミュージカルのヒット曲からファミリー・ミュージカルのナンバーまで名曲の数々を再構成した。実力本位の劇団だけに歌い踊る俳優たちのはじけるような若さとひたむきさが光った。

ディズニーの最新作「アナと雪の女王」(ジェニファー・リー脚本 ロバート・ロペス&クリステン・アンダーソン=ロペス夫妻作詞・作曲ロブ・アシュフォード振付 マイケル・グランデージ演出 高橋知伽江台本)がコロナ禍で開幕が9カ月遅れて6月24日、初日を迎えることが出来た。2013年公開の長編アニメをもとに

舞台化され、2018年3月、ブロードウェイで初演された。本来なら四季劇場[春]のこけら落とし作品とあって待ち続けたファンが多く、チケット一般発売初日の総販売総数が劇団史上最多の23万9000枚を突破した。魔力を持つ女王エルサ(岡本瑞恵・三井莉穂)は、妹のアナ(三平果歩・町島智子)を傷つけたことで心を閉ざすが、アナは姉を慕い続ける。「生まれて初めて」「雪だるま」など12曲の新曲が加わり、舞台がより華やかになった。エルサの歌う「ありのままで」で一瞬でキラキラ衣裳に早替わりし、プロジェクションマッピングの映像やLEDパネルを駆使してきらめく雪と氷の世界が劇場中に広がる。雪だるまやトナカイなどの動きも面白く、家族で必見の舞台に仕上がった。

新作オリジナルファミリー・ミュージカル「はじまりの樹の神話~こそあどの森の物語~」(岡田淳原作 南圭一郎脚本・歌詞 兼松衆音楽 松島勇気振付 山下純輝演出)が自由劇場(8月15日~29日)で開幕した。内気な少年スキッパーがホタルギツネに頼まれて森の樹に縛られた少女ハシバミを助け出したのをきっかけに、巨大な樹をめぐっての神話と現実が交錯するファンタジー。「生きるって」の主題歌が力強い。22年3月21日まで全国80都市を巡演する。

東京・有明に開場した有明四季劇場で9月26日から「ライオンキング」のロングランが始まった。12月20日には日本上演23周年を迎えた。総公演回数は1万3000回を超え、観客動員数も1300万人を突破する大記録を樹立した。

劇団四季初のコンサート「アンドリュー・ロイド・ウェバーコンサート~アンマスクド」(12月10日~19日 東京建物Brillia HALL)を開催するなど積極的な一年だった。2022年10月から、ディズニーリゾート内にある舞浜アンフィシアターで、新演出版「美女と野獣」を上演することが発表された。東京だけでなく、名古屋、大阪、福岡のロングラン公演を含めて21年の公演回数は20年の1500回を大きく上回る2312回、売り上げ高も前年比70億円増の150億円が見込まれる。

社会派ミュージカルに取り組むホリプロ

人種差別・格差、ジェンダーなど社会派作品 と正面から取り組んだのがホリプロである。3 年ぶり再演の「パレード」(アルフレッド・ウー リー作 ジェイソン・ロバート・ブラウン作 詞・作曲 森新太郎演出)は冤罪事件の実話。 アメリカ北部から南部のアトランタに来たユダ ヤ人の工場長レオ(石丸幹二)が少女強姦事件の 犯人にでっち上げられる。ユダヤ人への差別と 南部の北部に対する憎しみのテーマは重い。 「アリージャンス~忠誠」(1月15日~31日 東 京芸術劇場プレイハウス)は、ブロードウェ イ・ミュージカル初のアジア系クリエーター (ジェイ・クオ脚本・作詞・作曲)によって創ら れ、演出もアジア系の演出家(スタフォード・ アリマ)だ。第二次世界大戦下のアメリカで強 制収容所に収容されたアメリカ在住の日系人キ ムラ一家の物語。米政府による「忠誠登録質問 表」に父(渡辺徹)は拒否し、長女ケイ(濱田めぐ み)は日系人の待遇改善運動に走り、長男サ ミー(海宝直人)は忠誠を誓って徴兵に応じる。 日系人差別による一家の悲劇。「自由の国は見 せかけだけだ。正義を約束しながらひどい差別」 と歌う「アリージャンス」は現代も同じだ(3月12 日~23日 東京国際フォーラムホールC)。

「ジェイミー」(トム・マックレー脚本 ジェフリー・ペイジ演出・振付 ダン・ギレスピー・セレズ音楽)は日本初演。ドラアグクイーンに憧れる16歳の高校生ジェイミー(森崎ウィン・高橋颯)が母親の応援を得て夢に向かって自分らしく生きる姿が描かれる。伝説のドラアグクイーン(石川禅)が語る「ドラアグクイーンはただの女装ではなく戦士だ」は本音だろう(8月8日~29日 東京建物Brillia HALL)。

「蜘蛛女のキス」(マヌエル・プイグ原作 テレンス・マクナリー脚本 フレッド・エブ作詞ジョン・カンダー音楽 日澤雄介演出)は、映画好きの同性愛者モリーナ(石丸幹二)が、政治犯バレンティン(相葉裕樹・村井良大)への愛に殉じる。モリーナの語る大女優オーロラと彼女が演じる蜘蛛女に扮する安蘭けいが妖艶だ(11月26日~12月12日 東京芸術劇場プレイハウス)。同性愛ゆえに身を滅す「スリル・ミー」は7演目で2011年の初演メンバー(田代万里生・新納慎也)、2018年組(成河・福士誠治)、オーディション組(松岡広大・山崎大輝)と3組が競演した(4月1日~5月2日 東京芸術劇場シアターウエスト)。

「MERRILY WE ROLL ALONG」(ジョージ・ファース脚本 スティーブン・ソンドハイム作詞・作曲 マリア・フリートマン演出)は学生時代の親友が社会に出てから生じた格差によって友情が壊れてゆく。「ウエストサイド・ストーリー」「スウィニー・トッド」など名曲の数々を生み出したソンドハイムが、11月26日、91歳で死去した。

「17AGAIN」(マルコ・バネット脚本 アラン・ザッカリー&マイケル・ウエイナー作詞・作曲 谷賢一演出)は、負け組の35歳のマイク(竹内涼真)が突然17歳に戻ったことで家族への愛に気づく。人生再生の物語である。

日本初演の「ジャック・ザ・リッパー」(イヴァン・ヘジャ脚本 バッソ・パテール作曲 ミカエル・コーチュレック演出)は、2007年、チェコのプラハで制作され、2年後韓国で人気 ミュージカルになったサスペンス作品。娼婦だけを狙う殺人鬼を追う刑事アンダーソン(松下優也・加藤和樹)、情報提供の取引を持ちかける記者(田代万里生)、生きた内臓を欲しがる外科医ダニエル(木村達成・小野賢章)。全体に印象は暗い(9月9日~29日 日生劇場)。

漫画の「北斗の拳」(武論尊原作 原哲夫漫画)をミュージカル化した「フィスト・オブ・ノーススター」(髙橋亜子脚本・作詞 フランク・ワイルドホーン音楽 石丸さち子演出 辻本知彦・顔安振付)はオリジナル・ミュージカルの中で21年度の収穫の一つだろう。核戦争後、暴力が支配する世界で一子相伝の北斗神拳の伝承者となったケンシロウ(大貫勇輔)を長兄ラオウ(福井晶一・宮尾俊太郎)が認めず、世界制覇の野望を抱く。2人の対決で激しい立廻りがあるが、大貫のダンスと高度の跳躍力が光った。ワイルドホーンの音楽は時に猛々しく、時に情感に溢れ、ストーリーにより沿う(12月8日~29日 日生劇場)。

東宝と共同主催の「オリバー」は31年ぶり。 格差社会がもたらした貧困の中で救貧院から葬 儀屋に売られたオリバーの大勢の子役はW キャストで、全員まとめるだけでも大変だ。ス リの親分フェイギンの市村正親は、軽妙な中に もどん底で生きる哀しみを滲ませた。Wキャ ストの武田真治は悪党ぶりを強調させた(10月 7日~11月7日 東急シアターオーブ)。ミュー ジカルのほか芝居も手がけるホリプロの制作能力は高い。ホリプロを設立した堀威夫氏が文化功労者に認定された。

「ニュージーズ」で成果をあげた東宝

東宝は再演物が多かった。花總まり・笹本玲奈の「マリー・アントワネット」、市村正親の「屋根の上のヴァイオリン弾き」、花村想太の「きみはいい人、チャーリー・ブラウン」、山崎育三郎の「モーツァルト!」、城田優の「ブロードウェイと銃弾」、「レ・ミゼラブル」、浦井健治の「王家の紋章」、鈴木拡樹・三浦宏規の「リトル・ショップ・オブ・ホラーズ」、井上芳雄・堂本光一W主演の「ナイツ・テイルー騎士物語」など再演で練り上げている。

1963年の初演以来、東宝が再演をくり返して きた「マイ・フェア・レディ」は、イライザを朝 夏まなと・神田沙也加、ヒギンズ教授を別所哲 也・寺脇康文のWキャストで帝劇(11月14日~ 28日)からスタート。22年1月28日の博多座ま で地方巡演が決まっていた。札幌公演(12月17 日~20日)中、12月18日昼の部に出演予定だっ た神田沙也加が現れず、朝夏が急遽代役に立 ち、公演を無事終えた。18日午後、ホテル22階 から飛び下りたと思われる神田沙也加が見つか り、その死が確認された。18日夜の部は朝夏が 舞台をつとめたが、19、20日は公演を中止し た。博多公演まで朝夏が一人でイライザを演じ 続けることになった。神田は「王家の紋章」(8 月5日~28日 帝劇)で現代のアメリカ人の学 生キャロルを生き生き演じていただけに35歳 での突然の死は20年の三浦春馬の自死に続く 衝撃の事件だった。東宝は「エニシングゴーズ」 の公演中止騒ぎに続く痛手である。

収穫は初演の「ニュージーズ」(ハーヴェイ・ファイアスタイン脚本 ジャック・フェルドマン作詞 アラン・メンケン作曲 小池修一郎 訳・訳詞・演出)である。1899年のニューヨーク。新聞販売少年のジャック(京本大我)は、新聞の卸し値をつり上げたワールド社のオーナー、ピュリッツアー(松平健)に対して、仲間の少年たちにストライキを働きかける。「エリザベート」のルドルフで気品をたたえたSixTO NESの京本が、社会の矛盾と闘いながら成長してゆく姿を骨太に演じた。ニュージーズに同情

する咲妃みゆの新聞記者が爽やか。少年たちの 群舞が見事だった(10月9日~30日 日生劇場)。

初演の「ウェイトレス」(ジェシー・ネルソン 脚本 サラ・バレリス作詞・音楽 上田一豪演 出補)は、ウェイトレスでパイ作りの名人ジェナ(高畑充希)の妊娠、出産、結婚、自立と一人の 女性の人生をポップに描いている。初主演の高 畑ははじける演技で見せた(3月9日~30日 日 生劇場)。

音楽座の名作「マドモアゼル・モーツァルト」 (福山庸治原作 小林香演出)を東宝が手がけた。小室哲哉やモーツァルト、サリエリの曲をまじえながらモーツァルトは女だった設定で明日海りおが演じた。

題材が豊富な宝塚歌劇団

コロナ禍で途中休演もあったが、宝塚歌劇団は五組とも活力がある。本公演は本拠地の宝塚大劇場から東京宝塚劇場へと3ヵ月半舞台が続く。21年は1月3日が月組「ピガール狂騒曲」の千秋楽と変則だったが、植田紳爾作・演出「WE LCOME TO TAKARAZUKA一雪と月と花と」で、日本舞踊の名手で専科の松本悠里(43期)が舞い収めた。大階段を下りずひっそりと卒業した。専科のトップ・オブ・トップと言われた轟悠(71期)も植田紳爾作・演出「婆娑羅の玄孫」(7月22日~29日 東京芸術劇場プレイハウス)で36年間の男役人生を打ち切り、10月1日付けで静かに宝塚を去った。「エリザベート」のルキーニ、「風と共に去りぬ」のバトラーなどの当たり役が多い。最後まで男役の美学を貫いた。

コロナのため2組のトップコンビが半年遅れで卒業した。雪組の望海風斗(89期)と真彩希帆(98期)は「fffーフォルティシモー歓喜に歌え!一」(2月26日~4月12日)で、理想を追い求めて苦悩するベートーヴェンと彼を支える謎の女で最後の輝きを見せた。次期トップは彩風咲奈・朝月希和。

月組の珠城りょう(94期)と美園さくら(99期)コンビは「桜嵐記」(7月10日~8月15日)で卒業した。南朝として正義を貫いた楠正行と身分違いの弁内侍の役柄だった。「fff」と「桜嵐記」はともに上田久美子の骨太の作品である。次期トップコンビは月城かなと・海乃美月。

宙組は宝塚版「アナスタシア」(1月8日~2月

26日)終了後、真風涼帆の相手役星風まどかが 専科に移動後、花組「アウグストゥスー尊厳あ る者」(5月28日~7月4日)で退団した華優希 (100期)のあとを継ぎ、柚香光の相手役になる という珍しい移動があった。二番手の瀬戸かず やが卒業した。

星組の礼真琴は「ロミオとジュリエット」(4月16日~5月23日)のあと「柳生忍法帖」(11月20日~12月26日)の柳生十兵衛で骨太の演技を認められ、文化庁芸術祭新人賞を受賞した。岡田敬二作「モアー・ダンディズム!」がこれまでの宝塚レビューを再現。愛月ひかる(93期)が「サヨナラショー」つきで退団した。コロナの影響で20年の退団者が13人と少なかったこともあり、21年の退団者は57人もいた。

歴史物の大作が多い中で宙組の「シャーロック・ホームズーThe Game Is Afoot!」(生田大和作・演出)がサスペンスタッチで楽しい舞台に仕上がった。

テーマも多彩に

梅田芸術劇場が男女版「ポーの一族」(萩尾望都原作 太田健音楽 小池修一郎脚本・演出)で宝塚時代と同じ明日海りおをエドガーに起用した。アランはミュージカル初挑戦の千葉雄大(2月3日~17日 東京国際フォーラム ホールC)。男女版「ロミオ&ジュリエット」(5月21日~6月13日 赤坂ACTシアター)は5度目。3年ぶり再演の「MATA HARI」(6月15日~27日 東京建物Brillia HALL)は柚希礼音のマタハリをスパイに利用するラドウ大佐の加藤和樹、部下のアルマンの東啓介のオリジナルキャストに新たに愛希れいか、田代万里生、三浦涼介を加えた。配役は8通りある。

宝塚OG出演の「寺田瀧雄没後20年メモリアルコンサート」(7月1日~2日 オーチャードホール)や「花組・月組100周年」(11月13日~22日 東京国際フォーラムホールC)では懐かしい顔が揃った。

イッツフォーリーズは13年ぶりの「俺たちは 天使じゃない」(矢代静一原作 藤田敏雄脚本・ 作詞 山川啓介作詞 いずみたく音楽 金澤菜 乃英演出)のほか、新作ミュージカルに京極夏 彦の長編推理・怪奇小説「魍魎の匣」(板垣恭一 上演台本・作詞・演出 小澤時史音楽)を取り 上げた。複数の難事件を解決してゆく京極堂の 小西遼生が難曲「長い物語」を歌い上げた(11月 10日~15日 オルタナティブシアター)。

サーカスに命を賭ける男を描いた「バーナム」、健常者と障害者の愛を描いた「ゆびさきと恋々」、ロケット作りに夢中になる高校生を描いた「OCTOBER SKY」、天才作家の未発表原稿の所有者がイスラエルの国会図書館と争う「HOPE」などテーマはさまざま。「HOPE」に主演した高橋惠子は、女優生活51年目でミュージカルに初挑戦した。「HOPE」をはじめ「SMOKE」「僕とナターシャと白いロバ」「スリル・ミー」など韓国ミュージカルも多い。ミュージカル公演が多かったTBS赤坂ACTシアターは、11月の「赤坂大歌舞伎」を最後に閉鎖され、22年夏、「ハリーポッター」専用劇場として生まれ変わる。

ジャニーズ事務所も活発に

帝劇恒例の「DREAM BOYS」(12月から1月27日まで)で正月を越し、堂本光一の「Endless SHOCK」(2月4日~3月31日)は1800回を越えた。再び「DREAM BOYS」(9月6日~29日)、A. B.C-Zの「ジャニーズ伝説 at Imperial Theatre 2021」(12月7日~21日)とジャニーズ事務所公演が帝劇を5ヵ月独占している。新橋演舞場では「滝沢歌舞伎ZERO」(4月8日~5月16日)がSnow Man中心。HiHi Jets、美少年による「少年たち君にこの歌を」(9月5日~27日)、Travis Japanで「虎者 NINJAPAN 2021」(11月3日~27日)と3ヵ月公演している。

さらに堂本光一は井上芳雄とW主演の「ナイツ・テイル」、屋良朝幸の「ドッグファイト」(9月17日~10月4日 シアタークリエ)、Kis-My-Ft2の藤ヶ谷太輔が「ドン・ジュアン」(10月21日~11月6日 赤坂ACTシアター)、NEWSの増田貴久が「ハウ・トゥー・サクシード」(11月20日~12月7日 東急シアターオーブ)、ジャニーズ」「、11月25日~12月12日 紀伊國屋サザンシアター)を再演するなど、個人として力をつけている。滝沢秀明社長が、ジャニーズ」「、22歳定年を打ち出した。近藤真彦の退所をはじめV6の11月1日解散など話題が多い。12月30日には坂本昌行と元宝塚歌劇雪組トップスター朝海ひかるの結婚報道で一年を締めくくった。

2021年のミュージカル・ベスト10

専門誌「ミュージカル」誌が、2021年のミュージカル・ベスト10を発表した(選出メンバーは評論家・ジャーナリスト21名)。

〈作品BEST10〉

第 1 位「アナと雪の女王」(演出:M・グランス デージ)

第2位「ニュージーズ」(演出:小池修一郎) 第3位「蜘蛛女のキス」(演出:日澤雄介)

第 4 位「フィスト・オブ・ノーススター」(演出: 石丸さち子)

第5位「桜嵐記」(演出:上田久美子)

第6位「オリバー!」(演出: J-P・V・D・スプイ)

第7位「アリージャンス~忠誠~」(演出:S・アリマ)

第8位「ジェイミー」(演出:J・ペイジ)

第9位「アナスタシア」(演出:稲葉太地)

第9位「ウェイトレス」(演出:D・パウルス)

〈再演賞〉「レ・ミゼラブル」(東宝)

〈演出家賞〉小池修一郎(ニュージーズ、ロミオ とジュリエット、ロミオ&ジュリエット、ポー の一族、モーツァルト!)

〈男優BEST10〉

第1位 石丸幹二 第2位 京本大我 第3位 市村正親 第4位 竹内涼真 第5位 海宝直人 第6位 井上芳雄 第7位 加藤和樹 第7位 平方元基 第9位 大貫勇輔 第9位 田代万 里生

〈女優BEST10〉

第1位 安蘭けい 第2位 咲妃みゆ 第3位 高畑充希 第4位 濱田めぐみ 第5位 明日 海りお 第6位 神田沙也加 第7位 上白石 萌音 第8位 礼真琴 第9位 鳳蘭 第9位 珠城りょう

よこみぞ・ゆきこ

演劇評論家。日本演劇協会理事。都民劇場評議 員・歌舞伎サークル企画委員。時事通信社文化 部編集委員を経て文化庁芸術祭審査委員、芸術 文化振興会演劇専門委員、日大芸術学部非常勤 講師を歴任。著書に「夢を語る役者たち」ほか。

[地方演劇]

地方演劇~2021年の足跡

森洋三

2020年(令和2年)春から続くコロナ禍の中、21年に入ってヨーロッパ企画(京都市)が2年ぶりの本公演と全国ツアー、劇団ジャブジャブサーキット(岐阜・北方町)も1年9か月ぶりの活動再開など地方演劇界も活況を取り戻しつつある。そんな中、大阪府が5月末の緊急事態再延長に際して「土日の無観客開催」を要請、「なんで大阪だけが?」と週末主体に公演を予定していた各劇団を困惑させた。また11月に入って全国屈指の公演活動を展開しているわらび座(秋田県仙北市)が民事再生法の適用を申請。演劇祭はとやま世界こども演劇祭(5月)、豊岡演劇祭(9月)などが中止、一方、全国シニア演劇大会in Tokyo(6月)、鳥の演劇祭14(9月)、関西演劇祭2021(11月)などは開催された。

関西演劇界の聖地アイホールが存続の危機に

兵庫県で二つの"演劇的事件"が起きた。一つは4月に国公立大学では初めての演劇専門課程を持つ(兵庫県立)芸術文化観光専門職大学の開学、もう一つは7月に"関西最後の小劇場の砦"とも言われる伊丹市立演劇ホール「アイホール(AI・HALL)」存続の危機である。芸術文化観光専門職大学については後で触れることにして、公立劇場の採算性の低さ(赤字たれ流しのハコもの行政?)と市民にもたらす質の高い芸術文化創造との両面で、全国の公共施設の運営に影響も考えられるアイホールを先に取り上げる。

アイホールはバブル経済期のさなか、伊丹市 (人口約20万人)が1988年(昭和63年)11月、建設費12億円をかけJR伊丹駅前の一等地にオープンした。客席300席前後の小劇場、ホールが19m四方の正方形、約10mの吹き抜け構造になっている。ホール建設にあたって伊丹市は高らかに「劇場都市宣言」を発し、劇団そとばこまち、劇団☆新感線や青年団をはじめ関西、関東の名だたる劇団が同ホールに登場して小劇場のメッカになっている。96年から劇作家・北村想(元

プロジェクト・ナビ主宰)が塾長(現在は名誉塾 長)を勤める劇作家養成講座「伊丹想流私塾」(現 在は劇団太陽族主宰の岩崎正裕を塾長とする伊 丹想流塾に改称)を開き、いま第一線で活躍す る劇作家や演出家を多数送り出し、アイホール は小劇場ながら高い評価を確立してきた。

問題の発端は同時期に大規模改修が必要に なる伊丹市の3文化施設(市立文化会館=東リ いたみホール、市立音楽ホール=伊丹アイフォ ニックホール、市立演劇ホール=アイホール) について2016年2月策定の「伊丹市公共施設再 配置基本計画」による再配置方針だ。3施設の うち東リいたみホールと伊丹アイフォニック ホールは利用者数が安定、かつ市内居住者の利 用率が高いのに比べてアイホールが建設当時は 約6万人いた利用者が近年4~5万人にとどま り、過去3度の市民アンケートでも「よく利用す る「利用したことがある」市民の割合が他の ホールより低く(約15%)、また来館者に市内居 住者の割合が低いという結果が出ている。さら に改修に当たって特殊な舞台設備の更新に約4 億円もの改修費用が見込まれること。市民の税 金を使う年間運営費(指定管理委託料)が約9千 万円にのぼるという。

公立文化施設の赤字運営の悩みは全国共通の問題である。伊丹市はアイホールの存続、用途転換を模索、国土交通省総合政策局が指針を示した「サウンディング型市場調査」を8月に実施、これに民間業者5社が参加した。同型市場調査は「市有地などの活用について、事業検討の段階で公募による対話を通じて事業者や市場の動向を調査する」という手法である。8月20日に公表された調査結果を見ると「屋内アスレチックス施設」やいま人気のスポーツになっている「クライミング・アスレチック施設」「演劇ホールと連動したライブラリーカフェ」などが提案されている。

アイホールは3年間の現状維持に

アイホールの危機に際して同ホールの存続 を強く望む演劇界から「アイホールの存続を望 む会」(小原延之代表)が結成され、「小劇場の聖 地を守れ」と署名運動も。日本劇作家協会の渡 辺えり会長が9月に伊丹市を訪れホール存続を 求める要望書を藤原保幸市長に手渡し、また呼 びかけ人の平田オリザ芸術文化観光専門職大学 学長も同市長と面談した。藤原市長は「人口20 万都市が、日本の演劇文化を市民の負担で支え るのは荷が重い」と語り、今後について11月17 日の市議会都市企業常任委員協議会で行った 「演劇ホール(アイホール)の活用検討について」 の内容を説明。それによると「向こう3年間は 演劇ホールとして存続させる「自主事業は行わ ない「3年の間に方向性(演劇用のホールを別 のホールに設ける、用途変更する、このまま貸 館とする)を決める」とされた。ただ、同時に紹 介された市民アンケート結果では現状維持は 5%、用途変更が57%を占め、アイホール存続に ついて伊丹市民の注ぐ厳しい目が気がかりであ る。

国公立大学初、本格的な演劇が学べる「芸術文 化観光専門職大学」の開学

国公立大学で初めて本格的に演劇が学べる (兵庫県立)「芸術文化観光専門職大学」(芸術文 化・観光学部芸術文化・観光学科の1学部1学 科)が、構想段階からかかわり、推進に努めた青 年団主宰・平田オリザを学長として4月に開学 した。所在地は北部が日本海に面した兵庫県但 馬地区の豊岡市。人口約7万8千人の典型的な 地方都市である。城崎温泉と国の特別天然記念 物コウノトリの生息で知られ、年間450万人の 観光客が訪れている。市内には1901年(明治34 年)開場の近畿地方最古とされる芝居小屋「永楽 館」があり、2008年から片岡愛之助を座長に永 楽館歌舞伎が毎年開かれている(20、21年はコ ロナ禍で中止)。演劇的環境はほかにも城崎温 泉街の一角に14年にオープンした滞在型の創 作施設「城崎国際アートセンター」(平田オリザ 芸術監督)、20年秋から豊岡演劇祭(平田オリ ザ・フェスティバルディレクター)も始まっ た。青年団の座員の大半は既に本拠を東京から 豊岡市に移し、20年4月には同市内に商工会館 を改築した約150席の新拠点劇場「江原河畔劇場」(平田オリザ芸術総監督)をオープンさせた。

専門職大学は授業の3分の1以上を実践的な 職業教育や技能訓練を行う高等教育機関として の"職業大学"で、55年ぶりの学校教育法改正で 創設された。全国で4年制の14専門職大学(公 立2校、私立12校)、短大が公私立あわせ3校が 認可され、19年4月に学校法人日本教育財団に よる国際ファッション専門職大学(沂藤誠一学 長=元文化庁長官、日本舞踊協会会長)をはじ め次々と開学している。卒業生にファッション クリエイション学士、アニメ・マンガ学士など の学位が授与され、芸術文化観光専門職大学の 場合は芸術文化学士、または観光学士の学位が 授与される。同大学では観光系進路希望者は演 劇ワークショップ実習等の演劇科目を選択科目 とするが、芸術文化と観光の2つの視点を生か して地域の活力を創出する人材の育成を目指し ているため観光の科目以外に芸術文化や経営の 科目も履修する。

平田は学長メッセージで開学の趣意を「観光と芸術文化の復興」とし、「観光復興や芸術文化振興を通じて、豊かな地域社会を作り出す、その新時代を担う人材の育成が目標」。そして「日本で初めての芸術文化観光を深く学ぶ公立大学が、大都市圏でなく、この但馬の地に開設されることは、まさに時代を象徴した出来事だと感じます」と語っている。

日本で演劇が学べる大学は約20校。すべて 私立で東京、京阪神の大都市圏に位置する。ほ かに「芸術学部」をおく大学があるものの、その ほとんどは絵画やデザインが主体。芸術文化観 光専門職大学は国公立大学初の演劇が学べる大 学だが、例えば国立の東京芸術大学は音楽学部 邦楽科に能楽専攻コースがあり、狂言師・俳 優・演出家の野村萬斎や宝生流シテ方・宝生和 英宗家ら実演家を送り出し、沖縄県立芸術大学 の琉球芸能専攻も琉球舞踊組踊コースから多く の琉球古典舞踊家が巣立っている。

大阪には多数の演劇人を育成してきた大阪芸術大学(大阪府南河内郡川南町、1964年建学、学校法人塚本学院)、京都に京都芸術大学(京都市左京区北白川、1991年京都造形芸術大学として建学、2020年4月に改称。学校法人瓜生山学園)があり、両校は現代演劇を志向する

学生の人気大学になっている。その同じ関西 圏、しかもアクセスが必ずしも良いとは言えな い芸術文化観光専門職大学(第1学年は全寮 制、水道光熱費を含め月額3万円)に、1学年80 人の定員に3,000通もの資料請求があり、入学 者数84人(出身別は関西27人、関東・甲信越17 人、北海道・東北14人、中国・四国11人、九 州・沖縄8人、東海・北陸7人)に対して志願倍 率が7.8倍と高校生たちの関心がかなり高かっ た。少し細部にこだわると同専門職大学の授業 料は県立大学なので授業料は年額535,800円、 入学金が県内居住者282,000円(県外423,000 円)。ほかに指定パソコン購入費・施設費が加 わるが、入学金と授業料の初年度納入金が総額 817,800円(県外組958,800円)。一方、私立の場 合、入学金や授業料、施設設備費などを合計す ると京都芸大舞台芸術学科、大阪芸大学舞台芸 術学科、日大演劇学科などいずれもが170~180 万円。比較すると私立の演劇系学科の約半分、 やはり公立大学の強みであろう。

公共文化施設の民活、合理的運営への動き

東京・三字坂の国立劇場の建て替え計画が11 月に明らかになった。共同通信によると日本芸 術文化振興会と文化庁が建て替えに際して民間 業者が一体的に整備して劇場上部にホテルを作 り、劇場と上階部分の運営を民間事業者が運営 も担う。29年4月の竣工を予定し、上階部分は 「民間収益施設」としてホテルのほかレストラン やカフェ、ショップを設けるという構想だ。こ うした公立劇場における民活の例には岡山市 (人口約72万人)が23年9月1日オープンを目指 す「岡山芸術創造劇場」(愛称ハレノワ)がある。 "芸術創造劇場一体開発"として劇場一体型タ ワーマンション(84邸)を建設、岡山市負担の劇 場事業費は約241億円。また大阪府枚方市(人 口約40万人)が9月に開館させた「枚方市総合文 化芸術センター (総工費約145億円)は約1500 席の大ホール、300席の小ホールにネーミング パートナーを募集。隣接の関西医科大学から両 ホール併せて年間1350万円、美術ギャラリー・ イベントホールを枚方信用金庫から年間260万 円のネーミング料を得ている。

一方、県と市が共同で新劇場を建設中なのが 「あきた芸術劇場ミルハス」だ。秋田県民会館、 秋田市民文化会館の老朽化建て替えに際して「県・市連携文化施設に関する整備計画」を策定、JR秋田駅近くの県民会館跡地に総事業費254億円をかけて建設中。2007席の大ホール、800席の中ホール、2つの小ホールを備え、22年9月にオープンする。県(人口94万人)市(人口30万人)の費用負担は県が57.5%、市が42.5%。いま地方自治体を取り巻く厳しい財政状況や人口減少などを考えると、建設費や運営にかかわる経費、整備費などへのメリットはいうまでもない。

21年に開館した新しい演劇施設には宮城・石巻市が10年前の東日本大震災で被災した石巻文化センター、市民会館の代替施設として芸術文化センター(大ホール1250席、小ホール300席)に博物館を併設した複合文化施設「マルホンまきあーとテラス」を4月に開館、10月は沖縄・那覇市の「那覇文化芸術劇場なはーと」(大劇場1594席、小劇場259席、大スタジオ)がオープン。このほか9月に姫路市が「アクリエひめじ」(大ホール2010席、中ホール693席、小ホール164席)、10月末に和歌山市が「和歌山城ホール」(大ホール954席、小ホール395席)、小田原市は小田原市民ホール(大ホール1105席、小ホール296席)。それぞれ老朽化した市民会館の代替施設として建てられた。

コロナ禍でわらび座が民事再生へ

秋田県仙北市(人口約2万5千人)の田園地帯 に本拠を据え、民俗伝統をベースにしたオリジ ナル・ミュージカルを上演する常設シアター 「わらび劇場」(710席)、温泉旅館やレストラ ン・地ビール製造などのリゾートを結合した 『あきた芸術村』を立ち上げユニークな活動を続 けるわらび座(山川龍巳社長)が11月、コロナ禍 による経営悪化(負債総額約14億4600万円)を 理由に秋田地裁へ民事再生法の適用を申請し た。1951年に東京で創設、2年後に旧田沢湖町 へ拠点を移し、2021年がちょうど創立70周年の 記念すべき年だった。東京商工リサーチによる と最盛期の05年には25万人の動員、売上高21 億円をあげていたが、20年には半減したとい う。コロナ禍により来場者、公演の激減、受け 入れていた修学旅行の中止などが業績悪化をも たらしたという。

今後は株式会社わらび座から「一般社団法人

わらび座」に事業を移し経営再建に当たるが、 長年の実績と信頼で寄付金の申し出が相次ぎ、 共同事業を行うパートナーの打診もあるよう だ。芸術活動はわらび劇場で創立70周年記念 公演のミュージカル「北斎マンガ」、小劇場で 「だってあなたの娘ですから~南極探検隊白瀬 矗と家族の物語」上演など活動は続いている。

演劇鑑賞会の危機~前橋演鑑の解散

東京などの劇団を支える貴重な存在になっている演劇鑑賞会の解散が相次いでいる。会員の高齢化に加えてコロナ禍の影響が大きいという。「前橋演劇鑑賞会」(前橋演鑑)が4月7日、前橋市民文化会館での第421回例会「罠」(俳優座劇場プロデュース)を最後に解散した。前橋演鑑といえば1962年からの長い歴史、ピーク時には会員6500人を誇った全国鑑賞会のリーダー的存在だった。その会員が約230人にまで減少、例会を維持できなくなって終止符を打った。4月末には倉敷市の「児島玉野市民劇場」が例会会場・児島文化センターの休館を理由に解散、6月は「姫路市民劇場」が45年の歴史に幕をおろし、12月には「秋田演劇鑑賞会」が第158回例会を最後に解散した。

地方演劇界の訃報を。1月14日、劇団弘演代表(創立メンバー)で女優・演出家の秋本博子が 大動脈瘤破裂のため死去、84歳。11月13日、60 年にわたって宇都宮演劇鑑賞会を支えた金子堅 太郎事務局長が肺炎のため死去、92歳。

地方に本拠を据えて活動する地域劇団、市民劇 団の軌跡の一端を紹介。

【1月】30~2月6日、劇団コヨーテ(札幌市)がコンカリーニョで「優しい乱暴」(亀井健作・演出)を。【2月】11~18日、座・れら(札幌市)がやまびこ座で「空の村号」(篠原久美子脚本、戸塚直人演出)、13・14日、劇団静芸(静岡市)がスタジオ特別公演「片づけたい女たち」(永井愛作、中川正臣演出)を。20・21日、劇団どろ(神戸市)がアトリエ新長田小劇場で別役実追悼連続公演I「消えなさいローラ」(別役作、合田幸平演出)、25~28日、劇団GIGA(福岡市)がぽんプラザホールで「宝島」(スティーブンソン原作、寺山修司作、山田恵理香演出)をそれぞれ上演。【3月】6・7日、劇団若者座(山口・宇部市)

が宇部市ふれあいセンターで全日本演劇フェス ティバルin宇部に参加、4劇団合同公演「逃げる うしびと」(広島友好作・演出)を、10~13日、 劇団清流劇場(兵庫・尼崎市)が一心寺シアター 倶楽で「クレーヴィンケル市の自由」(ヨーハ ン・ネストロイ原作、田中孝弥構成・演出)を 上演。20・21日、劇団どろ(神戸市)が新長田小 劇場で別役実追悼連続公演 Ⅱ「虫たちの日」(別 役作、中島英雄演出)を。【4月】8~11日、劇団 イナダ組(札幌市)がコンカリーニョで「春の黙 示録」(川尻恵太脚本、イナダ演出)、17・18日、 劇団ドラマシアターども(北海道江別市)が小劇 場ドラマシアターどもで劇団宴夢との合同公演 「流れ星」(宅間孝行作、枇本亨洋演出)を上演。 24・25日、劇団上野市民劇場(三重・伊賀市)が 蕉門ホールで「花いちもんめ」(宮本研作、福北 辨演出)を。【5月】28~30日、劇団支木(青森市) がアウガ多目的ホールで「ああ、婚活!」(田辺 典忠作・演出)を。【6月】11~13日、劇団大阪 (大阪市)が谷町劇場で「あつい胸さわぎ」(横山 拓也作、山内佳子演出)を上演。

【7月】4日、劇団やまなみ(山梨・北杜市)が 笛吹スコーレセンターで「結婚の申込」(伊賀山 昌三脚本、雨宮豊演出)、9~11日、劇団風蝕異 人街(札幌市)がシアターZOOで「ザ・ダイ バー」(野田秀樹作、こしばきこう演出)を。17・ 18日、劇団夜明け(岐阜・中津川市)が創立65周 年記念公演として常盤座で劇車銀河鉄道と「父 と暮せば」(井上ひさし作、鈴木博章演出)、31 日・8月1日、9日、劇団ひびき(岡山市)がオー ルライツ倉庫で「ジャングル・ジャンクション」 (高橋いさを原作、成井豊・真柴あずさ脚本、鶴 川直子演出)を上演。【8月】7~9日、劇団四紀 会が元町プチシアターで「なおちゃん」(別役実 作、桜井敏脚本、岸本敏朗演出)、25~28日、ギ ンギラ太陽's(福岡市)がイムズホールで「おし まイムズ、吹き抜けよ永遠に! (大塚むねと 作・演出、かぶりモノ造型)を。【9月】25日、劇 団道化(神戸市)が阪急中ホールで「わが家の客」 (喩栄軍作、伊藤希言台本、小原延之演出)を上 演。25・26日、劇団市民舞台(能本市)が能本市 国際交流会館ホールで創立60周年記念公演「も てなしたいッ~江津純花の出向ライフ (松本草 奈美作・演出)を上演。

【10月】9・10日、TSJ劇団(沖縄・宜野湾市)

がアトリエ銘苅ベースで結成15周年記念公演 「6-six-」(末吉功治脚本・演出)を、16・17日、小 田原市民劇団・劇団こゆるぎ座(小田原市)が三 の丸ホールで創立75周年記念公演「相州名物小 田原提灯縁起 (後藤翔如作、楠田正宏演出)を。 16・17日、劇団からっかぜ(浜松市)がアトリエ 公演「兄帰る」(永井愛作、布施佑一郎演出。11 月14日・クリエート浜松も)を、23・24日、劇 団弘演(青森・弘前市)が岩木文化センターあそ ベーるで秋本博子追悼公演「二十二夜待ち」(木 下順二作、作間しのぶ演出)を。30・31日、演劇 集団和歌山(和歌山市)が和歌の浦アート・ キューブで紀の国わかやま文化祭2021参加公 演「補陀落への長い長い旅路」(楠本幸男作、山 入桂吾演出)を上演。【11月】5・6日、劇団山形 (山形市)が中央公民館アズ七日町で「デイド リーム・ビリーバー」(堤泰之作、平野礼子演 出)、19~21日·26~28日、劇団大阪(大阪市) が谷町劇場で「ザ・空気」(永井愛作、熊本一演 出)を。19~21日・26~28日、劇団未来(大阪 市)がワークスタジオで「雉はじめて鳴く」(横山 拓也作、しまよしみち演出)、27・28日、岡山演 劇集団サライ(岡山市)が天神山文化プラザで 「偽作・杜子春」(芥川龍之介原作、 葛原一也脚 本・演出)を上演。27・28日、劇団OiBokkeShi (岡山県和気町)が岡山市表町・京橋地区で徘徊 演劇「よみちにひはくれない」(菅原直樹作・演 出)を上演。27・28日、劇団名芸(名古屋市)が 天白文化小劇場で創立60周年記念公演「水素で できたりんごの宇宙~宮沢賢治を読む」(長田芳 枝構成、近藤亜由美演出)を。【12月】17・18 日、関西芸術座(大阪市)がエル・シアターで 「ブンヤ、走れ!~阪神・淡路大震災 地域 ジャーナリズムの戦い」(駒来愼脚本、門田裕演 出)を、17~19日、劇団しようよ(京都市)が京 都芸術センター講堂で10周年記念公演「セミへ ブン」(大原渉平作・演出)をそれぞれ上演。

もり・ようぞう

演劇ライター。大阪市生まれ。1964年早稲田 大学卒業、中日新聞社に入社。東京新聞編集委 員を経てフリーに。文化庁芸術祭審査委員、国 立劇場歌舞伎公演専門委員などを歴任。日本演 劇協会会員、藝能学会会員。

[テレビ・ドラマ]

オリジナル脚本の個性が光る1年

中町綾子

新型コロナウイルス感染症流行の終息が見えず、ドラマ制作は、かつてとは異なる制約を受ける撮影状況が続いた。連続ドラマの中には、主演俳優のコロナウイルス感染症罹患により、放送を中断するドラマもあった。

一方で、映像コンテンツのプラットフォーム の存在感が定着し、テレビドラマも映像コンテンツのひとつとして位置づけられる傾向が強く なった。

そんな状況下で、2021年のゴールデンタイムの連続テレビドラマには、オリジナル脚本の秀作が目立った。TBSのサスペンスドラマ「天国と地獄〜サイコな2人〜」(1月〜3月、脚本=森下佳子)、「最愛」(10月〜12月、脚本=奥寺佐渡子、清水友佳子)、同じくTBSのホームドラマ「俺の家の話」(1月〜3月、脚本=宮藤官九郎)、会話劇である「大豆田とわ子と三人の元夫」(4月〜6月、カンテレ、脚本=坂元裕二)、日本テレビの青春ドラマ「コントが始まる」(4月〜6月、脚本=金子茂樹)など、いずれもテレビドラマの魅力を存分に感じさせる作品だった。

また、日本テレビ制作の連続ドラマでは、やや若い年齢層にもアピールする設定の意欲作が目をひいた。「ハコヅメ〜たたかう!交番女子〜」(7月〜9月)、「恋です!〜ヤンキー君と白杖ガール」(10月〜12月)ほかである。NHKでは、放送回数が4回〜5回のドラマ、1話が30分、5分のドラマ、といったショートコンテンツの開発が見られ、良作があった。土曜ドラマ枠の「今ここにある危機とぼくの好感度について」(4月〜5月全5回)、「六畳間のピアノマン」(2月、全4回)、昨年の12月に引き続き続編として放送された、「岸辺露伴は動かない」(12月、今回の放送は全3回)、「悲熊」(12月、今回の放送は全6回)などがあった。

2021年は、2011年の東日本大震災から10年となり、3月に「ペペロンチーノ」(NHK、BSプレミアム)ほか何作かのドラマが放送された。また、コロナ禍を踏まえたドラマでは、「流行感

冒」(NHK BS4K、BSプレミアム、総合)、2016年に 大ヒットした「逃げるは恥だが役に立つ」(TBS) の4年ぶりの続編「逃げるは恥だが役に立つ ガ ンバレ人類!新春スペシャル!!」(同)が注目 された。

●連続ドラマの注目作

TBSの連続ドラマでは、スリリングなサスペ ンスの中に、ズシリと重いメッセージをつきつ ける作品が存在感を放った。1月放送の日曜劇 場「天国と地獄~サイコな2人~」(TBS、1月17 日~3月21日)は、刑事の望月彩子(綾瀬はるか) と、ベンチャー企業の社長で殺人容疑者の日高 陽斗(高橋一生)の魂(と体)が互いに入れ替わる ことから始まる設定だ。入れ替わりの緊張感に 加え、望月は容疑者を追い詰めれば、自分が窮 地に追い込まれるといった状況に置かれる。そ して、そんな二人の殺人事件解明の攻防の先 に、日高の生き別れの兄との数奇な関係が明ら かになる。視聴者に格差社会の過酷さを感じさ せもした。(脚本=森下佳子、演出=平川雄一 朗ほか、プロデュース=中島啓介、東京ドラマ アウォード2021主演女優賞=綾瀬はるか)

10月放送の金曜ドラマ「最愛」(TBS、10月15日~12月17日)もまた、殺人事件の解決を軸にしたサスペンスドラマだった。15年前の殺人事件に端を発して、関係する人がそれぞれに過酷な選択をする。そこに、家族の絆や、それぞれが愛する人を守ろうとする強い思いが浮かびあがる。複雑な人間関係を巧みに描きながら、ストレートなテーマを伝える見ごたえあるドラマだった。(主演=吉高由里子、脚本=奥寺佐渡子、清水友佳子、演出=塚原あゆ子、山本剛義、村尾嘉昭、プロデュース=新井順子)

1月に放送された金曜ドラマ「俺の家の話」 (TBS、1月22日~3月26日)は、能楽の宗家に生まれたプロレスラーが親の介護をするという大胆な設定の中に、親子、兄弟の確執、介護の問題をみつめさせるホームドラマだ。プロレスラー の観山寿一(長瀬智也)が父(西田敏行)の危篤の知らせ受けて20数年ぶりに実家に帰り、父の介護をすることになる。血縁でつながった親子と兄弟、養子、婚約者、夫婦、元夫婦をふくめたにぎやかな家族の中に、伝統芸の継承の中に、息子と父との家族の再生の物語をあたたかく描く。笑いの中に感動を生む、熱量の高いドラマだった。(演出=金子文紀、山室大輔、福田亮介、チーフプロデューサー=磯山晶、東京ドラマアウォード2021作品賞グランプリ、助演男優賞=西田敏行、助演女優賞=江口のりこ、第58回ギャラクシー賞テレビ部門優秀賞)

「大豆田とわ子と三人の元夫」(カンテレ、4月 13日~6月15日)は、タイトルのとおり大豆田と わ子(松たか子)と別れた三人の元夫(松田龍 平、角田晃広、岡田将生)が繰り広げる会話劇 だ。離婚しても3人そろって彼女の家を訪ね、 そのリビングで時間を過ごす。ドラマには、自 分の人生で別れを告げた人、今もなお心の中に いる人への想いがにじむ。亡くなった母、親友 (市川実日子)、その人といた時間、その人の存 在に思いを残しながらも強く生きる、そんな感 覚が、坂元裕二ドラマならではの繊細な気持の 表現のなかに描写された。(ナレーション=伊 藤沙莉、演出=中江和仁ほか、プロデュース= 佐野亜裕美、東京ドラマアウォード作品嘗連続 ドラマ部門優秀賞、脚本賞=坂元裕二、主題歌 賞=STUTS & 松たか子 with 3exes「Presen ce」、第59回ギャラクシー賞上期テレビ部門入 賞、日本民間放送連盟賞番組部門優秀賞、令和3 年度文化庁芸術祭賞優秀賞)

土曜ドラマ「コントが始まる」(日本テレビ、4月17日~6月19日)は、夢見心地で夢を追いかけた青春が終わりを迎える、そんな時間を描く異色の青春ドラマだった。高校の文化祭がきっかけで芸人の道を歩み始めた、お笑いトリオ「マクベス」のメンバー(菅田将暉、神木隆之介、仲野太賀)だが、彼らは10年やっても売れなかったら解散すると決めていた。そして、売れないままその期限を間近に迎える。一方で、有名な食品メーカーを辞めた中浜里穂子(有村架純)は、バイト先のファミレスを毎週おとずれるマクベスの活動を心の支えにしていた。挫折を経て次をめざす。挫折の過程、仲間の絆、好きなものを応援する(推しをつくる)、を描く中

に、ともに過ごす時間のかけがえのなさを伝えていた。(脚本=金子茂樹、演出=猪股隆一、金井絋ほか、チーフプロデューサー=池田健司、プロデューサー=福井雄太ほか、東京ドラマアウォード2021長編ドラマ部門優秀賞、日本民間放送連盟賞2021年度ドラマ部門優秀賞)

日本テレビの水曜ドラマ枠には若者にアピールする職場ドラマ、恋愛ドラマが目をひいた。

水曜ドラマ「ハコヅメ〜たたかう! 交番女子〜」(7月7日〜9月15日)は、警察学校を主席で卒業した敏腕警察官の先輩(戸田恵梨香)が交番勤務となり、ペアを組んだ新人警察官(永野芽郁)の指導にあたる。仕事へのやりがいや、周囲の人間関係をふくめた職場での人間関係などが気持よく描かれた。(脚本=根本ノンジ、演出=南雲聖一、丸谷俊平ほか、チーフプロデューサー=加藤正俊、プロデューサー=藤森真実、原作=泰三子、ギャラクシー賞9月度月間賞)

水曜ドラマ「恋です!~ヤンキー君と白杖ガール」(日本テレビ、10月6日~12月15日)は、盲学校に通う弱視の赤座ユキコ(杉咲花)と、不器用で純粋なヤンキー青年の黒川森生(杉野遥亮)の恋模様をやさしく描いた。周囲の不理解がありながらも、本人たちの思いはまっすぐで、身近な人たちはあたたかく接する。恋愛を軸に、他者を思いやり理解する関係が描かれた。(脚本=松田裕子、演出=内田秀実、狩山俊輔、チーフプロデューサー=加藤正俊、プロデューサー=森雅弘ほか、原作=うおやま、ギャラクシー賞12月度月間賞)

また、10月に放送された土曜ドラマ「二月の勝者ー絶対合格の教室ー」(日本テレビ、10月16日~12月18日)は、東京の中学受験塾を舞台に、受験産業としての受験塾、受験にとりくむ親子の関係、子供の成長を、運営・指導する側、親子の側、両側面から描いた。塾の経営や指導、中学受験で家族が直面する問題など、ひとつひとつの描写に高い情報量があった。(脚本=成瀬活雄、演出=鈴木勇馬、原作=高瀬志帆、企画プロデューサー=海局にか)

NHKの連続ドラマでは、土曜ドラマ枠で放送されたドラマに良作が目立った。土曜ドラマ「今ここにある危機とぼくの好感度について」

(NHK総合、4月24日~5月29日、全5回)は、テ レビ局のアナウンサー(松坂桃李)が大学の広報 マンに転職するところから始まる。好感度を気 にし、世間から叩かれることを恐れて、事なか れ主義のコメントが多かった。そんな彼が大学 で起こる不祥事に対応する。右往左往するなか に現代の組織の在り様や、個人の身の処し方を 鋭く風刺した。(脚本=渡辺あや、演出=柴田 岳志 堀切園健太郎、制作統括=勝田夏子ほ か、文化庁芸術祭賞大賞、第59回ギャラクシー 賞上期入賞)。土曜ドラマ枠ではないが、本作 と同じく勝田夏子が制作統括のドラマ10「半径 5メートル」(NHK総合、4月30日~6月25日全9 回)もオリジナル脚本(作=橋部敦子ほか)の注 目作だった。女性週刊誌で芸能ゴシップを扱う 「一折(いちおり)」班で失敗した主人公(芳根京 子)が、生活情報担当の「二折(におり)」班に異 動になる。そこで女性たちの身近な問題「半径 5メートル」の問題に取り組む。題材の取り上 げ方に見ごたえがあり、主人公像にも魅力が あった。(演出=三島有紀子ほか)

土曜ドラマ「六畳間のピアノマン」(NHK、2月6日~27日、全4回)は、ブラック企業のパワハラがもとで命を落とした青年(古舘佑太郎)の元同僚(加藤シゲアキ)や父(段田安則)をはじめ周囲の人物を描く群像劇だ。青年が過酷な日々の中で配信していた動画で弾き語るビリー・ジョエルの「ピアノ・マン」が強い印象を残す濃密な作品だった。(脚本=足立紳、演出=野田雄介、泉並敬眞、制作統括=内田ゆき、原作=安藤祐介)

土曜ドラマ「きよして」(NHK、3月20日)は重松清の自伝的小説をドラマ化した。作家(安田顕)が相談の手紙をきっかけに自分の幼い頃のことを綴る。吃音で思うことがうまく言えずに引っ込み思案だった少年時代(鳥越壮真)と、大学進学で一人立ちする頃を心情豊かに描いた。(脚本=いとう菜のは、演出=狩山俊輔、原作=重松清、制作統括=海辺潔、三上絵里子)

特集ドラマ「岸辺露伴は動かない」(NHK、12月27日~12月29日、全3回)は、昨年末に1話から3話まで放送されたが、2021年は第4話から第6話が放送された。漫画家の岸辺露伴(高橋一生)が、"ヘブンズ・ドアー"という特殊能力を使って、遭遇する奇妙な事件に挑む。相手の

頭の中を本のページを開くようにして(実際に 顔が本のページのようになる)、その人の心や 記憶を読み解き、指示を書き込む。巧みなCG 技術、出演者の好演で見る者を不思議な世界に 引き込んだ。(脚本=小林靖子、演出=渡辺一 貴、制作統括=鈴木貴靖ほか、原作=荒木飛呂 彦、ギャラクシー賞2021年1月度月間賞)

ミニドラマ「悲熊」(NHK、12月13日~15日5分枠で全6回)の原作は4コマ漫画だ。熊役を熊の着ぐるみをきた俳優(重岡大毅)が演じるという点においても異色のドラマだが、原作が描き出す前向きな健気さや、小さな喜びや悲哀など心の機微が存分に表現されていて、心の和む微笑ましいドラマだった。(脚本=森ハヤシ、演出=本多繁勝、音楽=河内結衣、原作=キューライス、制作統括=海辺潔、西紀州、東京ドラマアウォード2021年奨励賞)

「ハルカの光」(NHK Eテレ、全5回、2月8日 ~3月8日)は、東日本大震災で被災した時の記憶で母との関係がうまくいっていなかった女性(黒島結菜)が主人公だ。照明オタクで名作デザインの照明器具を扱う専門店で働く彼女が、訪れる客に照明器具にまつわる物語やその光が放つ魅力を説明し、客の思いを知るうちに自らも心を癒していく。実在の照明器具をモチーフにした、やわらかな光と思いに満ちたドラマ。(作=矢島弘一、演出=松原弘志、長澤佳也、制作統括=樋口俊一)

深夜ドラマの注目作は以下の通り。ドラマ 25「直ちゃんは小学生」(テレビ東京、1月9日~2 月13日、ギャラクシー賞2月度月間賞)、ドラマ 24「生きるとか死ぬとか父親とか」(テレビ東京、4月10日~6月26日)、オシドラサタデー「コタローは1人暮らし」(テレビ朝日、4月24日~6月26日)、金曜ナイトドラマ「あの時、キスしておけば」(テレビ朝日、4月30日~6月18日)。

●単発ドラマの注目作

単発ドラマでは、新型コロナウイルスの感染拡大、東日本大震災から10年を契機としたドラマが日をひいた。

「流行感冒」(NHK BS4K、3月27日、NHK BS プレミアム4月10日、NHK総合、11月6日)は、 流行感冒(スペイン風邪)が流行し終息するまで を主人公の作家(本木雅弘)の視点で描く。未知 の感染症への恐れや周囲の目を気にする様子など、コロナ禍と重なる感情を巧みにあぶりだす 秀作だった。(原作=志賀直哉、脚本=長田育 恵、演出=柳川強、制作統括=松川博敬)

「逃げるは恥だが役に立つ ガンバレ人類!新春スペシャル!!」(TBS、1月2日)では、コロナ禍での出産が描かれた。同ドラマは、2016年の大ヒット作だが、コロナ禍が拡大する2020年の再放送も大きな話題となった。本作でも時代と向き合ったドラマづくりで、制作者から視聴者へのメッセージやエール、共有される未来への願いが感じられるドラマだった。(主演=新垣結衣、星野源、脚本=野木亜紀子、演出=金子文紀、プロデューサー=那須田淳、峠田浩、磯山晶ほか、原作=海野つなみ)

東日本大震災を題材とした地域発ドラマ「ペペロンチーノ」(NHK BSプレミアム、BS4K、初回放送3月6日)はNHK仙台放送局の制作で、NHK東日本大震災プロジェクトの一環として制作された。宮城県牡鹿半島の海沿いのイタリアンレストランのオーナーシェフ(草彅剛)が震災後に出会った人を招く。震災後の出来事が彼との思い出として語られていく。何よりも、時をへてもなお彼が妻のぬくもりを感じている、その描写が胸を打つ。(脚本=一色伸幸、演出=丸山拓也、制作統括=青木一徳、東京ドラマアウォード2021ローカルドラマ賞)

そのほか、NHKスペシャル ドラマ「星影の ワルツ」(3月7日)は、60歳の男性(遠藤憲一)が 津波で3日間海を漂流し、救助されるまでの実 話を題材にしたドラマだ。(作=峰尾賢人、大 石みちこ、演出=川上剛、制作統括=新延明)

東日本大震災10年特集ドラマ「あなたのそばで明日が笑う」(NHK、3月6日)は、行方不明になった夫を待ち続けていた女性(綾瀬はるか)が、古本屋を始めようと、石巻に移住してきた建築士(池松壮亮)と出会うところから始まるドラマだ。(作=三浦直之、演出=田中正、制作統括=磯智明)

ローカル局制作ドラマの**福島中央テレビ開局50周年記念オリジナルドラマ「浜の朝日の嘘つきどもと」**(福島中央テレビ、2020年10月30日、2021年にTOKYO MXでオンエア、テレビドラマ版の前日譚を描く劇場版作品が2021年8月27日に福島県で先行公開、同年9月10日公

開)は、昨年放送された作品だが、あらためて注目された。福島県南相馬市にある廃業寸前の名画座に、失意の映画監督(竹原ピストル)が吸い込まれるようにやってくる。彼を迎えたのは、映画館の館主(柳家喬太郎)、スタッフ(高畑充希)をはじめ、みな嘘つきばかり。みんな優しい嘘をつきながらたくましく生きている。そんな彼らの物語が心地よい。(監督・脚本=タナダユキ、プロデューサー=斎藤裕樹ほか、日本民間放送連盟賞最優秀賞、第58回ギャラクシー賞テレビ部門選奨)

ほかのローカルドラマの注目作には次のようなものがある。「ミヤコが京都にやって来た!」(朝日放送テレビ、1月11日~2月14日)は、東京に住む娘(藤野涼子)と京都に暮らす父(佐々木蔵之介)のひさびさの再会を描く。(脚本=今井雅子、監督=千葉行利、東京ドラマアウォードローカルドラマ賞)

新春ドラマスペシャル「人生最高の贈りもの」(テレビ東京、1月4日)、余命わずかと知った娘(石原さとみ)が、離れて暮らす父(寺尾聰)を訪ね、ともに過ごす時間を静かに描く。(脚本=岡田惠和、演出=石橋冠、チーフプロデューサー=中川順平、プロデューサー=田淵俊彦、八木康夫ほか、東京ドラマアウォード2021単発ドラマアウォード優秀賞)

スペシャルドラマ「エアガール」(テレビ朝日、3月20日)は、第二次世界大戦後初めてとなる日本の民間航空会社のスチュワーデスを目指した女性(広瀬すず)の物語だ。(脚本=橋本裕志、監督=藤田明二、プロデューサー=神田エミイ亜希子、中込卓也ほか、原案=中丸美繪、東京ドラマアウォード2021単発ドラマアウォード優秀賞)

●大河ドラマ/連続テレビ小説

大河ドラマ「青天を衝け」(2月14日~12月26日)は、同枠の第60作の記念作だった。日本資本主義の父と称される渋沢栄一(吉沢亮)の生涯を描き、舞台は江戸時代末期(幕末)から昭和初期だった。(作=大森美香、演出=黒崎博、田中健二ほか、製作総指揮=菓子浩ほか)

連続テレビ小説「おかえりモネ」(5月17日~10月29日)は、NHK東日本大震災プロジェクトの一環で制作された。宮城の気仙沼湾に位置す

る沖の島で育った主人公(清原果耶)が、気象予報で人々の生活の役に立ちたいと気象予報士をめざし、やがて帰郷して地域の人々のために働く。(作=安達奈緒子、演出=一木正恵ほか、制作統括=吉永証、須崎岳)

●高視聴率のドラマ

2021年1月1日~12月19日に放送された、15 分以上の番組を対象とした、「ジャンル別個人 視聴率ランキングベスト3/ビデオリサーチ視 聴率2021年【まとめ】」(関東地区)の上位3番組 は、以下の通りだった。

1位「ドラゴン桜」(最終回、13.1%、TBS、6月 27日放送回)、2位「青天を衝け」(12.5%、NHK、 2月14日放送回)、3位「天国と地獄・サイコな2 人」(最終回、12.0%、TBS、3月21日放送回)、3 位「TOKYO MER・走る救急救命室」(最終回、 12.0%、TBS、9月12日放送回)。

また、同資料によれば、「ターゲット×ジャンル別視聴率ベスト3」として、女性20~34歳のドラマ史著視聴率ランキングを紹介しているが、1位は、単発ドラマ**「逃げるは恥だが役に立つガンバレ人類!新春スペシャル!!」**(12.2%、TBS、1月2日放送)だった。※表記は参照元による。参照URL https://www.videor.co.jp/press/2021/211221.html

昨年までは「年間高世帯視聴率番組30」としてまとめられていたランキングが2021年より「年間高個人視聴率番組30」となった。2020年は、「半沢直樹」最終回(TBS、第3位)、連続テレビ小説、「エール」(NHK、第17位)、連続テレビ小説「スカーレット」(24位)の3本がランクインしていたが、ドラマ作品のランクインはなかった。関連について記しておくと、8月に開催された東京2020年オリンピック・パラリンピック関連番組が18作品を占め、同日の夜のニュース2本がランクインしたほか、大ヒット映画のアニメのオンエア「土曜プレミアム・劇場版・鬼滅の刃・無限列車編」(9月25日、フジテレビ)が23位にランクインした。

「2020年 年間高世帯視聴率番組30」(関東地区) https://www.videor.co.jp/tvrating/past_tvrating/top30/202030.html

「2021年 年間高個人視聴率番組30」(関東地区) https://www.videor.co.jp/tvrating/past_

tvrating/top30/202130.html

なかまち・あやこ

日本大学芸術学部教授。文化庁芸術祭執行委員会審査委員、「国際ドラマフェスティバル in TOKYO」東京ドラマウォード審査委員長など放送関連各賞の審査委員を務める。これまで、日本経済新聞「あのドラマこのセリフ」、読売新聞「アンテナ」など新聞各紙にテレビドラマ評論を執筆。著書に「ニッポンのテレビドラマ21の名セリフ」(弘文堂)ほか。

[特集]

コロナ禍2年目の演劇界

杉山 弘

演劇界は2021年も新型コロナウイルス(COV ID-19) に苦しめられた。地域によって異なる が、東京での状況を振り返ると、新規感染者が 全47都道府県と空港検疫で初めて6000人を超 えた第3波の襲来で、年明け早々の1月7日に2 同目の緊急事態宣言(3月21日まで)が発令さ れ、出演者やスタッフの感染による公演の中 止、延期が相次いだ。ホリプロ制作のミュージ カル『パレード』は初日から4公演を中止、梅田 芸術劇場制作のミュージカル『イリュージョニ スト』はコンサートバージョンに変更した上、 公演期間を3日間に縮小しての公演となった。 また、発令により収容人数の50%以下に制限さ れることや劇場の時間短縮(20時までに終演す ること)などが要請されたことから「状況がどん どん変わり、上演中止も視野に入れなければな らない。一寸先は闇の心が折れた状態での作品 作りは無理 (タカハ劇団主宰・高羽彩)と公演 実施を断念する劇団も相次いだ。

緊急事態盲言はこの後、英国由来の変異ウイ ルス「アルファ株」による第4波でゴールデン ウィーク直前の4月25日に3回目(6月20日ま で)が、インド由来の変異ウイルス「デルタ株」 が猛威を振るい「災害級」とまで形容された第5 波により、東京五輪開幕直前の7月12日から4 回目(9月30日まで)が、それぞれ発令された。 小康状態となった宣言解除期間中も蔓延防止等 重点措置の下での公演を余儀なくされ、東京に 限ってみると、ほぼ9か月にわたって制限下で の公演実施の状態だった。特に3回目の緊急事 態宣言では芸術文化関連のイベントについて中 止が要請され(4月25日~5月11日)、歌舞伎座 や帝国劇場、国立劇場、日生劇場をはじめ都内 の劇場が軒並み休業し演劇の灯が消えた。また 1日当たりの新規感染者が全国で2万5000人(8 月20日)を超す第5波が猛威を振るう中、東京五 輪が東京と埼玉、千葉、神奈川で行われる競技 について無観客での開催となり、公認文化行事 に位置付けられていた「東京キャラバンin駒沢 2021」(8月21~22日) も全国から東京に参加者が集結することが難しくなり中止となった。明治座が初めてブロードウェイ・ミュージカルに挑んだ『エニシング・ゴーズ』も緊急事態宣言や出演者の感染で全36回中29回が公演中止となった。

9月30日に4回目の緊急事態宣言が解除され、1か月の制限緩和期間を経て劇場は満席での上演が可能となったが、各劇場の対応は様々。歌舞伎座は収容定員の50%以内を続けた一方、劇団四季の専用劇場や新国立劇場、東京芸術劇場などは業種別ガイドラインに沿って、1階客席の最前列を空けて舞台上の演者から十分な距離を確保してチケットを販売。客席数が100人前後の小劇場では舞台と客席との距離が近く、収容率8割台での設定でコロナ対策を維持した。

売上高を見ると、歌舞伎座が1月から1時間前 後の演目を2本立てで上演する3部制興行を始 めたものの集客に苦しむ演目も散見され、松竹 の第3四半期連結決算(2021年3月~11月)での 演劇事業売上高は112億4900万円で、前年同期 比155.1%増となったが、コロナ禍前の197億 1800万円(2019年3月~11月)までには至らな かった。東宝の第3四半期連結決算(21年3月~ 11月)での演劇事業部門営業収入も、104億4400 万円(前年同期比187.8%増)で、その内訳は、興 行収入が79億6000万円(同155.2%増)、外部公 演収入が23億2400万円(同494.1%増)、その他 の収入が1億5900万円(同34.6%増)。いずれも 前年を上回ったが、コロナ禍前の128億4800万 円(2019年3月~11月)に及ばず、劇団四季も約 150億円の売上額(2021年1月~12月=見込み) と前年の80億7000万円と比べて倍増したが、コ ロナ禍前の2019年の242億900万円を大きく下 回った。回復傾向にあるとはいえ営業的には苦 戦を強いられた結果となった。

わらび座が民事再生手続き

長引くコロナ禍によりダメージを受け続け

てきた部分も表面化し始める。秋田県仙北市を 拠点に活動し、創立70周年を迎えた劇団「わら び座」の運営会社が、11月2日に民事再生法の適 用を申請し、再生手続きの開始決定を受けた。 国内外で年間約800回の公演を実施し、劇場に 宿泊施設を併設していることから観劇をセット にした修学旅行の受け入れ先となっていたが、 コロナ禍で修学旅行や学校公演の多くがキャン セルとなり収支が悪化していた。負債総額は約 14億4600万円という。このほか、児童劇などで 学校公演を中心に活動を続けてきた劇団では、 2021年に入って学校や子供会などでの観劇が 徐々に復活したものの、「3密」回避のため1回の 公演を4~6回に分けて上演。しかし、公演料は 1回分しか受け取れず、「自分で自分の首を絞め ているような状態」(劇団うりんこ・平松隆之公 演事業部長)だった。さらに第5波直後の9~10 月に再びキャンセルが相次いだ。

地域で演劇文化を支えてきた演劇鑑賞団体も会員の高齢化にコロナ禍が拍車をかける形で解散や規模縮小に追い込まれた。全国演劇鑑賞団体連絡会議によると、2021年に入ってから山形演劇鑑賞会、大宮演劇鑑賞会、姫路市民劇場など6団体が閉会。会員数は112団体8万7753人(21年8月現在)となり、最盛期だった1997年の28万7000人と比べ3分の1以下に減少している。また、2008年開館の東京・日暮里の小劇場「d-倉庫」は2021年12月末日で閉館した。「クラウドファンディングで多くの方々からのご支援を受け、存続に向けて大きな後押しをして頂きました。残念ながらこの度、諸般の事情により閉館することとなりました」(真壁茂夫代表)と無念の思いを滲ませる。

相次ぐ公演の中止や延期で俳優やスタッフも収入減に苦しんだ。日本芸能実演家団体協議会が実施した「実演芸術の再生に向けた提言に関するアンケート」報告書(2021年12月)によると、継続的な雇用となっていない実演家・スタッフが大半を占める中、2019年を100として比較した場合の2021年の年収は、全体平均52・7%で、演劇関係者は47.8%、舞台美術や照明、音響などのスタッフは53.0%に落ち込んでいる。キャンセル料の支払いも全体の36.2%が「すべて支払われなかった」状態で、特にスタッフは42.1%と高かった。一気に仕事がなくなり、キャンセ

ル補償や公的支援などのセーフティネットの少ない俳優やスタッフが転業、廃業したケースも少なくない。芸能団体の収入は61.2%で2020年の47.9%から回復基調にあり、観客数も45.3%と2020年の31.9%に比べて上昇したが、5割以下という数字は赤字覚悟で公演を実施した団体がほとんどだったことを示している。さらに、芝居を再開しようとしても離職した俳優・スタッフにより人手が足りなくなっているジレンマにも見舞われた。

公的支援の拡充

こうした苦境を救うための経済的な公的支援 は生まれてきている。文化庁は公演や展示活動 でチケット収入等を上げることを前提とした積 極的な活動への支援となる補助金事業「ARTS for the future!事業(令和2年度第3次補正予算 額 250億円、令和3年度予備費措置額 180億円) を新設し、公演に従事する人数、団体規模など で1団体当たり600万円~2500万円を定額補助 した。特徴は若手の起用やオンライン配信など の積極的な取り組みに対して、出演料や会場費 に加え緊急事態宣言などの対象地域で中止され た公演の経費補助を行った点と、助成金申請の 煩雑さを解消するため団体を通じて個人に支援 を届けようとした点。1次募集5368件、2次募集 5832件の計11200件の申請があり、合わせて7024 件の交付決定があった。

また、コロナ禍における地域の芸術文化の振 興・推進を目的とする「アートキャラバン事業」 (令和2年度第3次補正予算額 70億円)では、日 本演劇興行協会や日本劇団協議会、全国文化施 設協会など芸術文化を統括する10団体や各地 域の芸術関係者が主体となって、大規模かつ質 の高い舞台芸術公演が全国各地で上演された。 演劇関係では東宝ミュージカル『グリース』(相 模原市)、宝塚歌劇団星組公演『VERDAD(ヴェ ルダッド)!!』(浦安市)、新歌舞伎座『夫婦善哉』 (大阪市)、劇団四季『ライオンキング』(名古屋 市)、ホリプロ『ムサシ』(さいたま市)、ヴィレッ ヂ『狐睛明九尾狩』(港区)、パルコプロデュース 『ジュリアス・シーザー』(仙台市)などの大劇場 公演から、劇団チョコレートケーキ『一九一一 年』(釧路市など)、こまつ座『化粧二題』(豊橋市 など)、劇団民藝『泰山木の木の下で』(大分市な

ど)、文学座『怪談 牡丹燈籠』(静岡市など)、 NLTプロデュース『グッドピープル』(福島市な ど)、劇団文化座『命どう宝』(岐阜市など)、無名 塾『左の腕』(奈良市など) などの中小劇場公演ま で、8月から12月にかけて全国各地での公演が 実現した。

このほか、体温を測る赤外線カメラや空気清 浄機の設置、チケットレス・キャッシュレス 化、トイレの洋式化など文化施設の環境整備を 支援する「文化施設の感染拡大予防・活動支援 環境整備事業」(同50億円)、学校などでの芸術 鑑賞や体験の機会を提供する「子供のための文 化芸術鑑賞・体験支援事業」(同23億円)など手 厚い支援が実現した。また経産省のJ-LODli ve2(コンテンツグローバル需要創出促進事業 費補助金)(令和2年度第3次補正予算額 715億 円、令和3年度予備費措置額 627億円)も前年に 引き続き実施され、海外向けにデジタル配信す る事業者への補助金を交付に力を入れた。しか し、売上減少を補填する目的で要望の強かった 芸術文化基金の創設は予算案に盛り込まれず、 関係者を失望させている。助成金の使い道が限 定され、激しく変化する状況に対応しきれてい ない公的支援から、芸術文化を支援しようとす る個人や団体から寄付を募るクラウドファン ディングへ活路を見出す動きが出始めている。 また、芸術文化関係者の多くが個人事業主や小 規模団体で、仕事を受ける際も口約束やメール で済ませる場合が目立っていることから、国で は4月にフリーの芸能従事者を労災保険の対象 としたほか、適正な契約書を交わすことを求め るガイドライン作りの検討も始めた。

ネットワーク作りの動き

劇団や劇場などが手を結んで共に支え合おうとするネットワーク化も急速な広がりを見せた。2020年5月にコロナウイルスが拡大する中、社会との親和性を図りながら舞台芸術の公演再開を目的として、東宝、松竹、劇団四季をはじめ、ホリプロ、NODA・MAP、オフィス3○、サードステージ、二兎社、ナイロン100°C、ミナモザなどで結成した「緊急事態舞台芸術ネットワーク」は、2021年9月16日に一般社団法人化した。感染拡大防止のための業種別ガイドライン作成、各種支援策に関する政府・自治体との協議・交

渉、情報周知や支援策活用のための現場サポー トなど、多岐にわたる活動を行ってきたが、加 盟団体が244(2021年9月末時点)に及んだこと から、長引くコロナ禍への対応を本格化させ、 ネットワーク活動を拡充させるために法人化し た。代表理事の一人、劇作家・演出家・俳優の 野田秀樹は、「コロナ禍が収束次第、解散すると いうことで集まったネットワークでした。当 初、持続化には消極的な姿勢でしたが、この思 いもかけない『繋がることの』重要性への自覚 と、さらにコロナ禍の長期化も手伝って、ネッ トワークが持続していくことにポジティブな方 向へと変わってまいりました。言ってみれば 『潰すには惜しい』という思い、ひいては日本の 演劇の未来に向けて引き続き、何らかの力にな り得るのではないか、そういう思いで、この度 の『法人化』に踏み切ることになりました。とは 言え、このネットワークの初心は、コロナ禍の 緊急事態を脱して、『普通の劇場の姿に戻る』そ のこと以外の何ものでもありません。邪心も野 心もありません。だから緩やかなネットワーク であること、そして、開かれたネットワークで あることを肝に銘じたいと思っております」と コメントを寄せている。同ネットワークではコ ロナによる感染の特性が徐々に判明してきたこ とから、劇場での感染対策についても細目の見 直しを図り、「舞台芸術公演における新型コロナ ウイルス感染予防対策ガイドライン(第四版)」 (2021年10月21日改定)を公開。また、EPAD(緊 急舞台芸術アーカイブ+デジタルシアター化支 援事業)では、舞台芸術の支援や収益力強化のた め寺田倉庫と連携し、新旧の公演映像などの収 集・配信を実現。権利処理を行うことで商用配 信プラットフォームでの活用を促進し、関係者 に対価を還元する枠組みを創出した。この取り 組みによって公演映像・Eラーニング・戯曲・ 舞台美術の4種4300点近くの舞台芸術資料を収 集した。ライブ芸術の演劇にとっては補完的な 役割を果たす形ではあるが、さまざまな事情で 劇場に足を運べなかった観客だけでなく、地方 はもとより海外への発信が可能となり、その反 対に大都市中心だった演劇を地方から発信する 双方向性も生まれ、「デジタルアーカイブ元年」 とも形容出来る広がりをみせた。11月には新 国立劇場が主催公演を映像配信する新たなプ ラットフォーム「新国デジタルシアター」を開設し、演劇では第6回ハヤカワ「悲劇喜劇」賞受賞作の『消えていくなら朝』(作=蓬莱竜太、演出=宮田慶子。2018年)が無料配信されている。

また、音響や照明、美術、大道具、警備などの 事業者団体が「日本舞台技術スタッフ団体連合 会」(横田健二理事長)を発足させ、9月2日に一 般社団法人化した。芸術文化・ライブエンタテ インメント産業に関する舞台制作技術サービス 事業を行う技術スタッフ事業者、事業者を支え る個人及び技術スタッフ団体の健全な発展のた めの活動に乗り出している。「全国小劇場ネッ トワーク」(野村政之代表理事)も9月7日に一般 社団法人化した。北海道から沖縄まで21都道 府県にある41の民間小劇場が加盟するネット ワークで、定例オンラインミーティングの開 催、舞台芸術家を招いてのシアターホームステ イ事業の実施、プロジェクトチームにおける新 規事業の立案、会員への情報提供や広報活動を 目的に、クラウドファンディングなどにも力を 入れ始めている。

オミクロン株が猛威をふるう

緊急事態官言が解除され、菅義偉首相の退陣 で10月4日に岸田文雄内閣が発足。2回のワクチ ン接種を完了した人は58.7% (9月28日時点) に達 し、会食やスポーツイベントがようやく日常を 取り戻す形で再開した。ところがこの動きが本 格化する中で、11月になって感染力が強いと言 われるオミクロン株が世界的に流行し、これを 受けて政府は外国人の入国禁止を打ち出した。 クラシック界の師走の風物詩・ベートーベン 「第九」演奏会に出演予定だった外国人指揮者や 歌手が来日できなくなり、アラブ首長国連邦 (UAE) で開催されたドバイ国際博覧会で日本 の伝統や文化を紹介する「ジャパンデー」(12月 11日)もイベントの縮小を余儀なくされた。年 が明けた2022年に入って、オミクロン株による 感染者が急増。ミュージカル『雨に唄えば』で英 国の出演者・スタッフ50数人が入国できず1月 中の公演が中止となるなど影響が出始めてい る。また、出演者らに陽性が確認された宝塚歌 劇団雪組公演『ODYSSEY』の全公演、同花組公 演『元禄バロックロック』やパルコプロデュース 『ロッキー・ホラー・ショー』公演の一部中止、

歌舞伎座「壽 初春大歌舞伎」第一部の上演中止 (1月14日のみ)など、再び新型コロナウイルスの猛威にさらされる事態となった。ミニシアターブームの先駆けだった東京・神保町の岩波ホールが2022年7月29日で54年の歴史に幕を閉じることも発表された。映画上映のほか鈴木忠志演出の前衛劇や白石加代子の朗読劇『百物語』シリーズなど演劇ファンにも馴染みの劇場だったが、「新型コロナの影響による急激な経営環境の変化を受けた」とコメント。歌舞伎専門誌「演劇界」も3月3日発売の4月号での休刊が決まった。ワクチンの3回目接種や感染症を治療する飲み薬の使用も始まっているが、まだまだ予断を許さない、出口の見えない状況が続いている。

すぎやま・ひろむ

演劇ジャーナリスト。日本劇団協議会理事。 1957年静岡市生まれ。81年読売新聞社入社。 芸能部記者、文化部デスクとして30年間にわた り演劇情報や劇評の執筆、読売演劇大賞の運営 などを担当。